

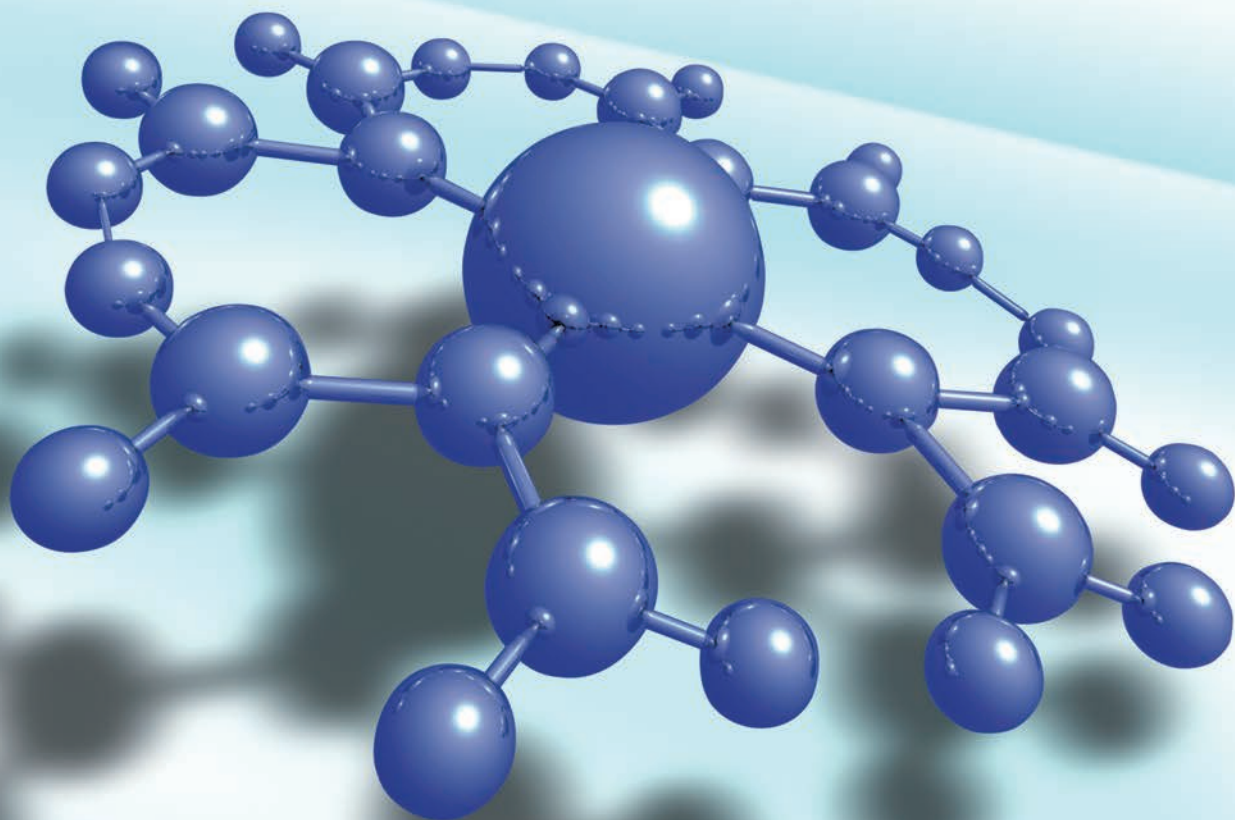
自治研 かんがわ

2013 **10** No.143
(通算 207号)

CONTENTS

巻頭言「明日の日本を神奈川から考えるつどい」を振り返って
2013年参院選挙の結果を読む

神奈川県地方自治研究センター理事長 上林得郎…………… 1



公益 神奈川
社団 県地方自治研究センター

標記の集会（2013年6月26日、横浜市開港記念会館講堂）における寺島実郎さんの基調講演「これからの日本のリベラル政治を考える」を聞いて大きな刺激を受けたが、同時に多くの重要な論点が残されていると感じた。寺島氏は「反米、反安保、護憲、社会主義がリベラルの基軸だった時代は終わった」として、「21世紀リベラルの5つの課題」をあげた。①対米関係の再設計（日米同盟の進化）。②グローバリズムの中での公正な分配の実現。③「平和国家精神の再起動。憲法9条の実体化」。④「原子力再考」。⑤「リベラル必ずしも反原発でない視座の可能性」。⑥「代議制民主主義の鍛え直し。議員定数の削減」。

このうち③については「戦争のできる国、戦争を支援する国に日本を変えていこうとするあらゆる動きを拒否するのがリベラルの神髄」であると述べており、この点は戦後日本の革新勢力が標榜してきた「護憲」「平和主義」の理念と整合的である。①の対米関係再構築の方向性について寺島氏は軍事的には米軍基地の段階的縮小と地位協定改定を通じた日本の自立自尊の回復、経済的にはより緊密な経済協力協定（日米FTA）の実現をあげた。この基盤の上に冷戦後にふさわしい近隣諸国との信頼感の醸成をはかるといふ寺島構想は反米・反安保を基軸としてきた日本の革新勢力が外交理念の転換に本格的に取り組むべき課題を提起したといえる。②の「公正な分配」の実現においては金融資本主義に立つマネーゲームを批判し経済格差の拡大を抑制すべきだと主張する一方で「自己規律こそリベラルの原点」であり「丸抱えの福祉や弱者救済を主張する議論には慎重でありたい」と述べた。ここには分配の問題だけでなく生産関係を含む産業民主主義の実現を重視する社会民主主義的価値観と寺島氏の「リベラル」的な価値観との質的な違いが感じられた。④の原子力政策においては原子力発電技術の維持・開発と、それを通じる国際的発言力の維持が主張された。「本来リベラルとは…人間の理性による制御困難なものへ挑戦する姿勢である」という寺島氏の議論は福島原発事故の惨禍を前にして容易に受け入れられるものではないが、原子力をめぐる国際政治の動向を含めた多面的な考察が必要なことも確かである。⑤で寺島氏は国会議員の質の低下を憂い「政治を弄ぶ人を排除して代議者の数を削減すべきだ」と主張した。政治屋の議員に対する寺島氏の強い批判に共感を覚えるが、他方で「政治改革の究極の目標は『政治の極小化』である」、「練磨の中から真のリーダーは育つ」とだけ言われても明日の日本におけるリベラル政治の具体的なイメージはわからない。

それではリベラル政治の担い手とは誰なのか。寺島氏によれば民主党は第二の保守党に墮した。また労働組合組織率は就業者の2割以下となり、主に大企業労組を組織する連合にも多くは期待できない。寺島氏が語るのは団塊世代等の高齢者の社会貢献的活動への期待と非正規労働者の新しい労働運動への期待である。民主党や連合を一刀両断に切り捨てる一方、「リベラル政治」の担い手についての議論は不十分である。民主党政権は確かに挫折したが、多くの貴重な政治的経験をもたらした。その批判的総括の上に継承すべきものと修正すべきものを鮮明にし、ポスト・アベに備えることが「明日の日本を神奈川から考える」原点だと思う。

2013年参院選挙の結果を読む

神奈川県地方自治研究センター理事長 上林 得郎

第1 全国の選挙結果

1. 選挙結果の概要

(1) はじめに

2013年7月21日に執行された第23回参议院議員通常選挙は、第2次安倍政権発足後の初めての大型国政選挙であった。昨年12月の総選挙で、民主党政権から再政権交代を果たした安倍晋三内閣の半年間の政権運営が問われるとともに、衆参の「ねじれ国会」が解消されるのかどうかも焦点とされていた。

今回の参院選は、7月4日に公示されスタートしたが、選挙区（改選数73）に271人、比例区（改選数48）に162人の計433人が立候補し、前回2010年の候補者437人をわずかながら下回っていた。

公示の直後7月6日の新聞各紙は、一斉に選挙予測について世論調査の結果を報道した。各紙とも共通して「自公、過半数の勢い。民主、改選議席半減か」「自民の強さ際立つ。小泉旋風を越す勢い」などと自民党圧勝の見込みを報道した。公示直後の予測報道は極めて異例であり、通常は投票日の1週間あたりの報道が多かった。

しかも選挙戦の中盤18～19日にかけても追加して世論調査の結果の報道があり、「与

党、過半数は確実。自民、改選議席倍増の勢い」「民主20議席割れも」との報道で、各紙ともほぼ同じ当選予測の内容であった。選挙の投票日前に、自民党・与党の圧勝が伝えられていたのである。

(2) 選挙結果の概要

選挙結果は、事前の予想通り、自民党が改選議席の34を65議席に倍増させ、自民党の一人勝ちで「1強体制」となった。連立与党を組む公明党も改選議席を1上回る11議席を獲得して、政権与党の大勝となった。この結果、自民党は非改選議席50を加えて115議席、公明党は非改選9を加えて20議席となり、政権与党は135議席となって定数242の過半数を大きく上回った。

自民党単独での過半数の獲得こそならなかったが、与党でみると「絶対安定多数」（すべての常任委員長のポストを占めた上で、委員の過半数を与党議員が占めることができる状態）を確保したことになる。衆議院で与党が325議席の絶対多数を得ていることとともに、衆参両院での多数派を握ることになり「ねじれ国会」が解消されることになった。

一方、2012年12月の総選挙で大敗した民

図表 1-1 第 23 回参議院選挙 党派別当選者数

2013 年 7 月 21 日執行

	立候補者数	改選議席数	当選者	うち女性	選挙区・改選73					比例区・改選48					非改選数	新勢力	うち女性	公示前勢力	増減
					合計	現	元	新	改選	合計	現	元	新	改選					
自 民	78	34	65	9	47	19		28	22	18	9	0	9	12	50	115	17	84	31
民 主	55	44	17	4	10	8		2	28	7	4	0	3	16	42	59	9	86	△ 27
公 明	21	10	11	2	4	1		3	3	7	3	0	4	7	9	20	3	19	1
み ん な	34	3	8	2	4	1		3	3	4	1	0	3	0	10	18	2	13	5
共 産	63	3	8	3	3	0	0	3	0	5	3	2	0	3	3	11	4	6	5
維 新	44	2	8	1	2	0		2	1	6	1	2	3	1	1	9	1	3	6
社 民	9	2	1	0	0	0		0	0	1	1	0	0	2	2	3	1	4	△ 1
生 活	11	6	0	0	0	0		0	3	0	0	0	0	3	2	2	1	8	△ 6
改 革		1							0					1	1	1	0	2	△ 1
み ど り	8	4	0	0	0	0		0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	4	△ 4
大 地	11	1	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	△ 1
諸 派	72	0	1	1	1	1		0	1		0	0	0	1	0	1	1	1	1
無 所 属	27	6	2	0	2	1		1	4		0	0	0	1	1	3	0	6	△ 4
計	433	116	121	22	73	31	0	42	68	48	22	4	22	48	121	242	39	237	5

諸派は沖縄社会大衆党

主党は、この選挙でも改選議席 44 の 4 割に満たない 17 議席しか獲得できず、非改選議席 42 を合わせても 59 議席にとどまる惨敗となった。民主党は野党第 1 党の地位こそ守ったものの、参議院で現在の選挙制度（選挙区 73、非拘束名簿式比例代表 48）になった 2001 年の通常選挙以来、最低の議席獲得数となってしまった。

第三極といわれたみんなの党は、改選議席 3 から 8 議席に、初めての参院選となった維新の会は改選議席 2 から 8 議席にそれぞれ議席を伸ばし、非改選を合わせるとみんなの党 18 議席、維新の会 9 議席となった。

共産党は、2001 年以來となる選挙区での議席を獲得するなど、改選議席 3 を 8 議席と大きく 5 議席伸ばし、非改選 3 を合わせて 11 議席に躍進した。社民党は、改選議席 2 を比例代表の 1 議席だけの獲得にとどまり、非改選を合わせても 3 議席となった。

生活の党は、改選議席 6 であったが議席はひとつも獲得できず、非改選の 2 議席だけになってしまった。みどりの風は改選議席 4 で

あったが、議席を得られず政党要件を失ってしまった。新党大地も改選議席 1 であったが議席は獲得できなかった。諸派は、沖縄選挙区で沖縄社会大衆党が議席を獲得したが、他の諸派は議席を得られなかった。無所属は、岩手と東京選挙区でそれぞれ 1 議席獲得している。（以上、図表 1-1 参照）

この結果、よほどの政局が起きて衆院の解散がない限り、3 年間は国政選挙が行われないことになり、「黄金の 3 年間」とよばれる自公による連立政権が続くものとみられる。毎年首相が交代するという 6 年間続いた異常な政治状況には、これで終止符が打たれたことになった。

(3) 戦後 3 番目の低投票率

きわめて盛り上がり欠けた参院選挙であったが、投票率も低く 52.61%であり、前回 2010 年の 57.92%を 5.31 ポイントも下回っており、参院選はじまって以来 3 番目に低い投票率となってしまった。ちなみに、最も高かった投票率は、衆参ダブル選挙が行われた

1980年の75.54%であり、その後は低下傾向が続き、最も低い投票率は1995年の44.52%で、次が1992年の50.72%であった。

低投票率は、いずれも政治改革論議が始まり、政党が多党化・流動化して政治不信がつのっていた時代であった。

今回も野党の多党化が進み政局が流動化して、その「野党に魅力がない」ことから有権者が選挙への熱意を失っていたのではなからうか。民主党政権への落胆などから再び政権交代があり、野党の候補者が乱立し野党同士で競い合い、どの政党へも期待が持てず政治不信が高まっていたことが原因だと思われる。既に冒頭で述べたように、選挙がはじまる前から自民党の優勢が伝えられ、公示後にもマスコミで自民大勝が伝えられ、投票への意欲がわかなかったことが指摘できる。

戦後最低を記録したのは、秋田・群馬・岐阜など10県あり、いずれも1人区である。その他の1人区でも投票率が軒並み前回は大きく下回っていたが、これは自民に対抗する野党候補が乱立する状況もあり、1人区で民主党が候補者を擁立できない選挙区もあったことなどから、選挙の勝敗があらかじめ読んでいる状況であったため投票を見送ったものであろう。

例外としては、岩手・山形・三重・沖縄がある。いずれも自民党と他党の候補者（無所属・みどりの風・民主・沖縄大衆党）が激しいつばぜり合いをした選挙区であり、前回より約3ポイント低下の3県と、沖縄では逆に約1ポイント上昇している。また、神奈川、京都・大阪・兵庫などでは、各党が候補者を擁立して激しく争った選挙区（中選挙区）であり、ここでは投票率はあまり下がらなかった。（投票率の詳細は、巻末資料集に掲載した）

なお、期日前投票を行った人は、公示の翌日7月5日から選挙の前日20日までの16日間で1,294万9,982人であり、前回の1,208

万5,636人より7.15%増加となっていた。全体の有権者に対する期日前投票者の割合は12.36%で、2004年からはじまったこの制度が定着し、毎回投票者の増加が続いているが、相対的な投票率の低下に歯止めがかかっていない状況といえる。

2. 選挙区選挙の特徴

今回の選挙を迎えるに当たって、国会は昨年11月に選挙区の定数を「4増4減」する法改正を行った。2010年の選挙における「一票の格差」が5.00倍であったことから最高裁から「違憲状態」との判決が出されたこともあって、最小限の定数是正を行ったのである。そのため、神奈川と大阪選挙区の定数を3から4に増やし、福島と岐阜選挙区の定数を2から1に減らすことになった。

したがって、選挙区選挙は31県で定数1の1人区（小選挙区）となり、北海道など10道府県が定数2の2人区、埼玉・千葉・愛知が定数3の3人区、神奈川・大阪が定数4の4人区、東京が定数5の5人区となった（2人区～5人区は中選挙区）（以下、本稿では政治家の敬称は省略させていただいた）。

(1) 1人区（小選挙区）の結果

選挙区選挙の大勢は、1人区（小選挙区）の選挙結果により決まるといわれている。小選挙区は他候補よりも1票でも多く票を得たものが当選する制度（多数代表制）であり、当選者以外の得票はすべて死票になってしまう。衆議院選挙が小選挙区制により多数派形成をしやすくする仕組みであるのと同じで、選挙ごとに当選者が変わることがおき、政権交代をしやすくするといわれている。

図表1-2のように、今回の選挙では、自民党が1人区で岩手と沖縄を除いて29府県で

図表 1-2 2013 参院選 選挙区における自民・公明と民主その他の与野党対決の結果

◎自民・公明の勝利、○民主系の勝利、×民主党候補者なし、△その他の党の勝利

府県名	定数	2013参院選							2010参院選					2007参院選				2004参院選					
		自民	民主	公明	みんな	維新	共産	その他	無所属	自民	民主	公明	みんな	他	自民	民主	公明	他	自民	民主	公明	他	
青森	1	◎	×						◎						○					○			
岩手	1	◎						△	◎	○										○			○
秋田	1	◎	×						◎								○						
山形	1	◎							◎											◎			
福島	1	◎							◎					◎						◎			
栃馬	1	◎							◎					◎						◎			
群馬	1	◎							◎					◎						◎			
富山	1	◎	×						◎								○			◎			
石川	1	◎							◎						○					◎			
福井	1	◎							◎											◎			
山梨	1	◎	×						◎	○					○					◎			○
岐阜	1	◎							◎								◎			◎			
三重	1	◎							◎								◎			◎			
滋賀	1	◎							◎	○										◎			
奈良	1	◎							◎	○										◎			
和歌山	1	◎	×						◎					◎						◎			
鳥取	1	◎							◎						○					◎			
島根	1	◎	×						◎								○			◎			
岡山	1	◎	×						◎	○					○					◎			○
山口	1	◎	×						◎											◎			
徳島	1	◎	×						◎											◎			
香川	1	◎	×						◎								○			◎			
愛媛	1	◎							◎	○										◎			○
高知	1	◎							◎											◎			
佐賀	1	◎							◎											◎			
長崎	1	◎							◎											◎			
熊本	1	◎							◎											◎			
大分	1	◎	×						◎	○										◎			○
宮崎	1	◎							◎											◎			
鹿児島	1	◎							◎											◎			
沖縄	1	◎	×					△	◎											◎			○
1人区計	31	29	×12					1	1	21	8				6	17		6	16	11		4	
北海道	2	◎	○						◎	○				◎	○				◎	○			
宮城	2	◎			△				◎	○				◎	○				◎	○			
茨城	2	◎	○						◎	○				◎	○				◎	○			
新潟	2	◎	○						◎	○				◎	○				◎	○			○
長野	2	◎	○						◎	○				◎	○				◎	○			
静岡	2	◎	○						◎	○				◎	○				◎	○			
京都	2	◎					△		◎	○				◎	○				◎	○			
兵庫	2	◎					△		◎	○				◎	○				◎	○			
広島	2	◎	○						◎	○				◎	○				◎	○			
福岡	2	◎	○						◎	○				◎	○				◎	○			
2人区計	20	10	7		1	1	1		12	12				11	12		1	12	11			1	
埼玉	3	◎		◎	△				◎	○	◎			◎	○				◎	○	○		
千葉	3	◎◎	○						◎	○		△		◎	○				◎	○			
愛知	3	◎	○		△				◎	○				◎	○				◎	○			
3人区計	9	4	2	1	2				5	6	2	2		5	9	1		5	7	2			
神奈川	4	◎	○	◎	△				◎	○	◎	△		◎	○				◎	○			
大阪	4	◎				△	△		◎	○				◎	○	○			◎	○			
4人区計	8	2	1	2	1	1	1																
東京	5	◎◎		◎			△	△	◎	○	◎	△		◎	○	◎	○		◎	○	◎		
5人区計	5	2		1			1	1	1	2	1	1		1	2	1	1	1	1	2	1		
選挙区計	73	47	10	4	4	2	3	1	2	39	28	3	3	0	23	40	2	8	34	31	3	5	
比例区計	48	18	7	7	4	6	5	0	0	12	16	6	7	7	14	20	7	7	15	19	8	6	
合計	121	65	17	11	8	8	8	2	2	51	44	9	10	7	37	60	9	15	49	50	11	11	

選挙区で当選者を出した党を中心にまとめている。

2004年は栃木・群馬・千葉は2人区、東京は4人区であった。2010年は福島、岐阜は1人区、神奈川、大阪は3人区であった。

したがって、1人区計、2人区計、3人区計はそれぞれの選挙時における定数の合計である。

2010参院選の鳥取選挙区浜田和幸は、2011年に自民党離党。現在は無所属。

すべて勝利している。岩手では元民主党の平野達男元復興担当大臣が無所属で当選し、沖縄では沖縄社会大衆党の糸数慶子党首が当選している。民主党は1人も議席を獲得できず、惨敗となった今回の選挙の象徴的な現象となった。しかも、政権を失って自信喪失したためか、この1人区31選挙区のうち候補者擁立を見送ったのは青森・山形をはじめ四国・中国などの12選挙区（図表1-2の×印）であり候補者も立てられず（立てず）に不戦敗となったのである。

民主党が大勝した2007年の参院選では、1人区では29選挙区中17選挙区で勝利し、自民党は6議席にとどまっていた。自民党が勝利した2010年の選挙では自民党が21選挙区で議席を得ており、民主党は8選挙区を獲得できていた。それが今回は31選挙区中議席ゼロとなり、それぞれの年の選挙結果を見ると、小選挙区の勝利が全体の勝利に直結していることを表していた。

府県別に見て参議院での自民党の独占区は、1人区で前回民主党が勝利した8県と、今回2人区から1人区になった福島、岐阜の2県、今回敗れた2県を除いた19県となった（鳥取は2010年に当選した自民の浜田和幸が、2011年、震災後に離党し、菅内閣に入閣。現在無所属）。また、昨年の総選挙で、小選挙区ですべての議席を独占したのは同じく19県であったので、衆院と参院のすべての議席を独占したのは、青森・秋田・群馬・富山・石川・福井・島根・山口・徳島・愛媛・佐賀・長崎・宮崎の13県となった。

(2) 2～5人区（中選挙区）の結果

2人区では、これまで自民・民主の2大政党が議席を分け合ってきており、両党の「指定席」と言われていた。ところが、この2人区でも、自民党は10選挙区のすべてで当選者を出しているが、民主党は宮城でみんなの

党に、京都では共産党に、兵庫では維新の会に現職の議席を奪われ、7選挙区でしか議席を獲得できなかった。

また、大都市を抱える3人区以上では、これまでは民主党が2名を擁立して2名当選させるなど優位にたち、毎回10議席以上を占めてきていた。それが今回は、自民党は2名候補を擁立した千葉・東京選挙区で2名当選を果たし、他の選挙区でも1名ずつ当選させ立候補者全員の8議席を獲得している。

それに対して民主党は、埼玉でみんなの党に、大阪では共産党にそれぞれ現職の議席を奪われている。

また、5人区の東京では民主党は2人公認を予定していたが、公示3日前に1名に絞ったものの、公認されなかった候補者が無所属で立候補し、2人とも落選してしまった。そして前回までの現職2議席を共産党の新人と山本太郎（無所属）に議席を奪われることになってしまった。この結果、民主党は3人以上の選挙区では、これまでの10議席からわずか3議席しかとれず、惨敗の象徴となってしまった。

選挙区では結果として、自民党は47議席を獲得することになり、民主党はわずか10議席となり、民主党が敗れた前回の28議席の3分の1となってしまったのである。公明党は候補者を立てた埼玉・神奈川・大阪・東京で全員当選し4議席を獲得した。

みんなの党は、宮城・埼玉・愛知・神奈川で4議席を獲得している。共産党は2001年に1議席獲得して以来、小選挙区で議席をとれないできていたが、今回は、東京・京都・大阪で当選して3議席となった。東京・大阪ではいずれも30代の若い候補者であり、特に若年層からの支持があったとされている。維新の会は、兵庫・大阪の2議席にとどまった。既に述べたが、諸派では沖縄社会大衆党が1議席、無所属は岩手・東京の2議席である。

3. 比例代表選挙の特徴

(1) 各党の選挙結果

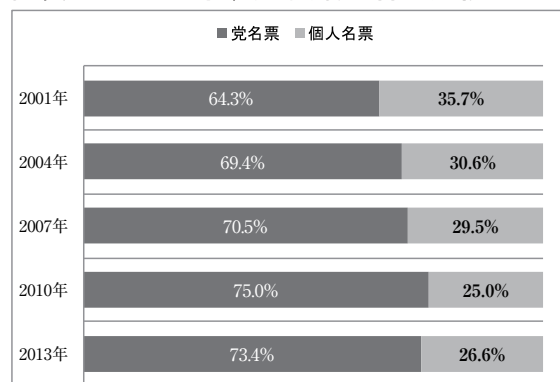
比例代表選挙では、2004年の選挙以来3回続けて民主党が自民党を上回る得票を獲得して、2004年は民主19議席・自民15議席、2007年民主20・自民14、2010年民主16・自民12と優位に立っていた。比例での議席が民主党を支えていたといえる。ところが昨年の総選挙で民主党は比例代表で87議席を30議席へと大幅に議席を減らし政権交代の要因となった。この流れは今回まで続いており、前回の得票を1,130万票も減らしてわずか713万票に大きく落ち込み、7議席しか獲得できなかった。これは2001年の8議席を下回り、結党後の最低の議席数となったのである。

自民党は、前回より439万票を増やして1,846万票で前回より6議席多い18議席を獲得した。2001年の2,011万票を獲得して以来減少を続けていた比例での得票を、今回増加に転じることができている。公明党は、前回とほぼ同数の757万票を得て民主党を上回り、前回より1議席多い7議席獲得した。政権与党の議席の増加は7議席となった。

共産党は、比例代表でも159万票を伸ばし515万票となり、5議席を獲得した。共産党は、1998年に819万票を得て8議席となったときが比例代表では最大議席数であり、その後4議席台と低迷していたが、今回選挙区の議席増と比例区での議席も増やし、躍進している。

参院選にはじめて参加した維新の会は636万票を得て6議席を獲得した。しかし、昨年の総選挙で1,226万票を獲得した勢いはなく、橋下代表の「従軍慰安婦発言」もあって一気に期待が冷めた状態が、半減した得票に現れている。一人の政治家の人気に頼ってい

図表 1-3 比例代表の投票割合の推移



る政党が、その人の言動により得票が影響される危うさを感じさせられた。

2度目の参院選となったみんなの党は476万票で4議席を獲得した。しかし、前回の794万票からは319万票の減少であり、第三極の勢いが弱まってきているといえよう。

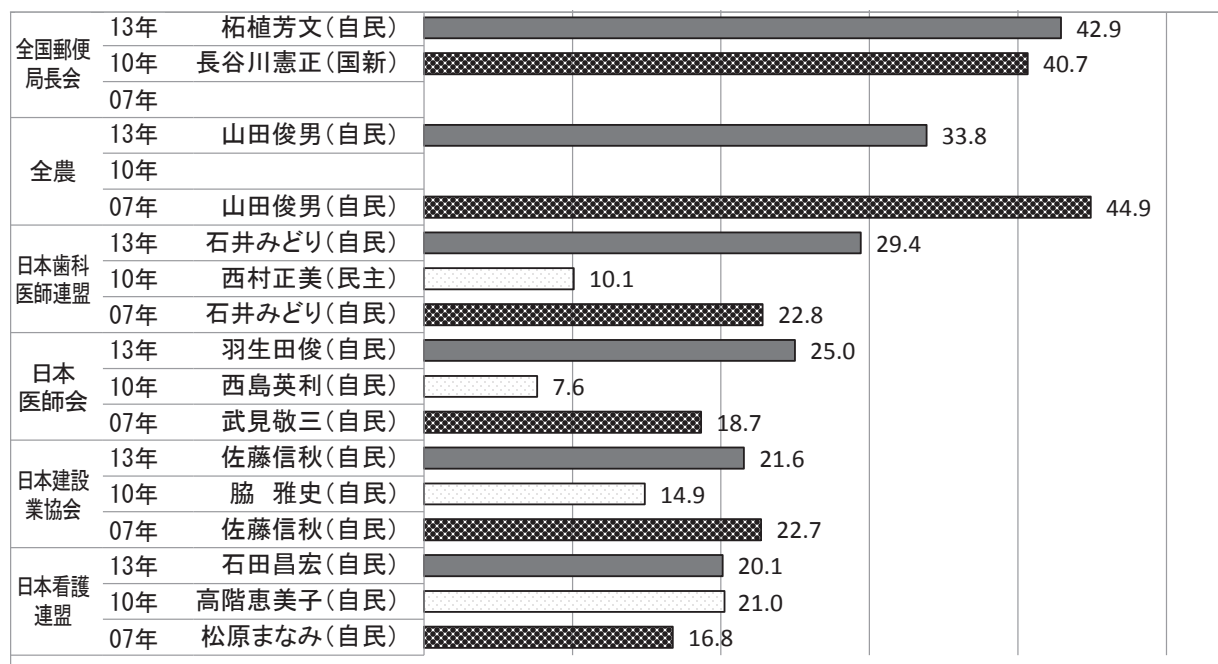
(2) 自民・民主の組織票復活

現在の非拘束名簿式比例代表制は、政党名を書くか、名簿に記載されている候補者の個人名書いて投票する（個人票）仕組みであり、その両方を合計して政党の得票として全国集計する。その得票数に応じてドント式で議席の配分を行う。2001年から始まったこの制度で、当初は個人票が35.7%であったが、回を重ねるたびに個人票が減少する傾向にあった（図表1-3参照）。それが今回は個人票が増加することになったのが特徴である。

この選挙制度は、全国を選挙区とするため、著名なタレントや学者文化人、全国的な組織を持つ業界団体や労働組合などが当初は有利とされていた。しかし、個人の自立が強まり、組織に対する帰属意識は組織の種類を問わずに希薄になり、政治的な動員力も低下する一方となった。こうして組織離れが進み業界団体や労組の集票力が衰えを見せ、大量得票を見込める有名人も減少したため、個人票が減少を続けたと言われていた。それが今回は個人票の増加となったのである。

図表 1-4 主な業界団体の得票の推移

万票



まず自民党では、政権復帰を果たしたことから業界団体の組織票が復活した。全国郵便局長会では、前回は国民新党の長谷川憲正を推薦したが40万票を得ながらも落選していた。今回自民党は、新人・柘植芳文を擁立し42万票を獲得して自民のトップ当選を果たした。全農は、前回は民主党政権であったことから特定の候補者を擁立しなかったが、今回は現職の元JA中央会専務・山田俊男の2期目の選挙となり、33.8万票を獲得して自民の2位で当選を果たした。

日本歯科医師連盟は、前回は民主党の西村正美を推薦して当選させていたが、今回は自民党の現職・石井みどりを推薦し29万票で自民の4位当選となっている。日本医師連盟は、前回は自民・民主・みんなの党の3候補を推薦したがいずれも落選し、今回は自民党の新人・羽生田俊候補一人に絞って25万票を獲得して同6位で当選させている。

日本建設業協会は、元国交事務次官の現職・佐藤信秋を、日本看護連盟も元連盟幹事長の新人・石田昌宏の自民党候補者をそれぞれ推

薦し、前回より6万票以上の得票が増加し、いずれも当選させている。(図表1-4)

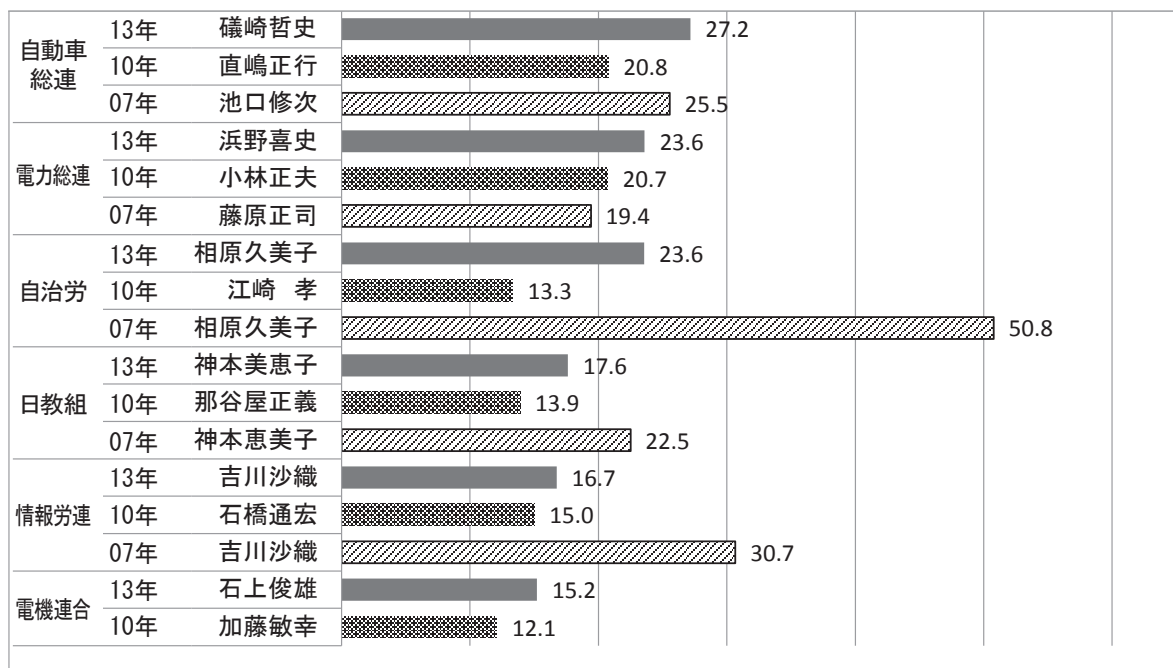
民主党では、比例代表当選者7名のうち6名が連合傘下の労働組合出身者で占めている。自動車総連の新人・磯崎哲史が27万票で前回の直嶋正行より7万票増やし、民主党のトップで当選した。電力総連の新人・浜野喜史氏も23.6万票で前回の小林正夫より3万票増やし、民主の2位で当選している。

自治労の現職・相原久美子、日教組の現職・神本美恵子、情報労連の現職・吉川沙織も2007年の自身への大量得票には及ばなかったものの、前回の候補者より得票を上乗せして当選していた。電機連合の新人・石上俊雄も前回の候補者より得票を増やして当選となった。

民主党への危機感から、当選者はいずれも前回の候補者より得票を増やしていたのが特徴的であった(図表1-5参照)。しかし、U Aゼンセン同盟、基幹労連の現職と、J P U郵政労組の新人候補は10万票以上を獲得したものの、民主党への得票が大幅に減少した

図表 1-5 民主党・労組出身候補の得票推移

万票



ことから当選できなかった。民主党への支持層が減少する中であって、労組に基礎票を持つ候補者が組織力を競い合って選挙を戦ったことになる。

民主党の残る1議席は大島九州男であり、元直方市議で立正校正会の組織がささえていた。2007年に当選した新人の候補者が、前述した労組出身者を含めて5人も落選しているのが特に目についた。

(3) 個人票を徹底させた公明、

党名優先の共産

公明党は創価学会を基礎にした組織に支えられており、共産党は戦後から一貫した組織政党として全国に組織を確立している。この両党の比例代表の取り組みは対称的である(図表 1-6 参照)。

公明党は、政党票の多い他党と異なり、半数以上が個人票である。2001年には77.2%が個人票であったが、その後やや低下して、今回は56%が個人票となっている。候補者

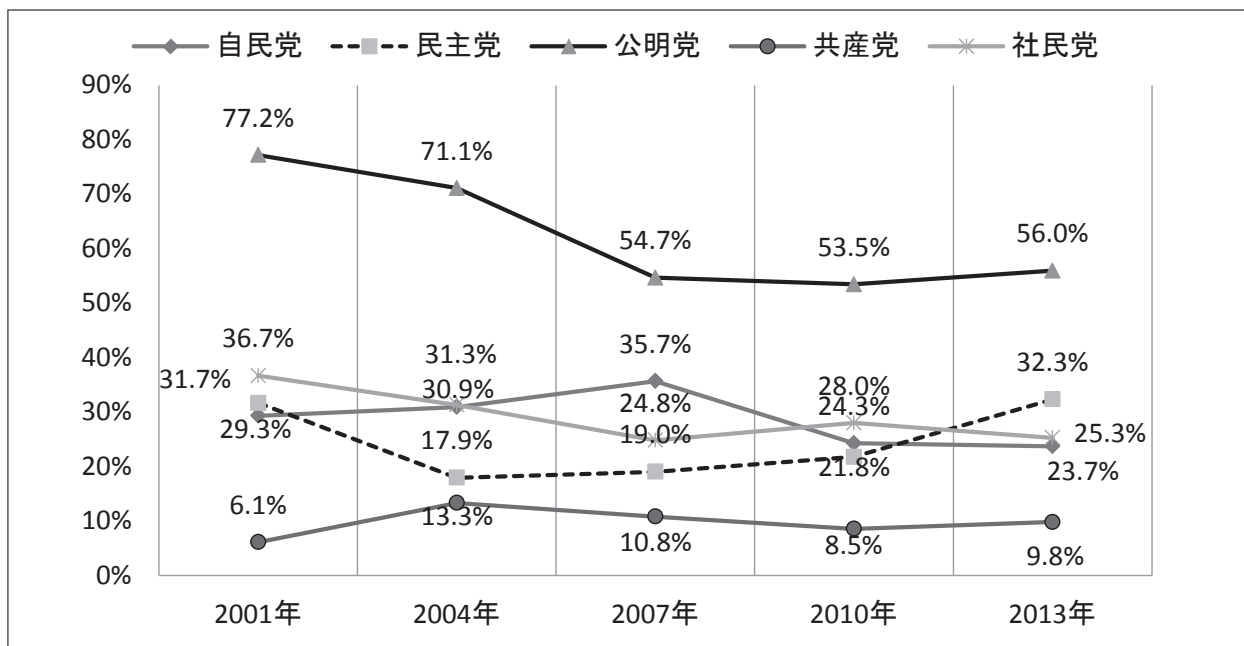
名を地域ごとに割り当てて、その地域から着実に個人票で得票するという徹底した組織選挙を行ったことがうかがえる。

全国の比例代表でトップ当選した現職の山本香苗は近畿地方を中心に99万票を獲得し、2位の新人・平木大作は関東地方を中心に77万票という大量得票をしている。3位の新人・河野義博は九州地方、4位の現職・山本博司は中国・四国地方、5位の新人・若松謙維は北海道・東北地方、6位の現職・魚住裕一郎は東海北陸地方が割り当てられており、それぞれの地域から集中的に50万票以上の個人票が出てきている。

公明党は改選数7名に対して当初6名の当選を予定していたようである。6議席まではすべて50万票以上の個人票を獲得していたが、その他の候補者には地域的な割り当てがほとんど見られず、得票には大きな票差が見られたことからの推定である。

これは、投票率が大きく低下したことにより公明党への相対的な得票率が上がったこと

図表 1-6 党派別・比例区個人票の割合の推移



と、民主党の不振が著しかったために、1議席多い7議席を獲得できてしまったためであろう。そこで、静岡県を中心にして2.6万票を得ていた新人・新妻秀規が、比例での当選者のうち全国でも最低の得票で当選することになったのである。

共産党は、党名投票の割合が多党より最も多く9割以上で、個人票は1割弱で、公明党とは対照的である。支援者には党名での投票を強く働きかけ、個人票はおそらく確実に投票する党员を中心に地域別割り当てを行ったものと推定される。

当選した5議席のうち、現職の小池晃は首都圏を中心にして大阪・兵庫などから13.4万票を得ている。現職・山下芳生は近畿地方を中心に12.9万票を得て、現職・紙智子は北海道東北地方を中心に6.9万票、現職・井上哲士は東海と京都などから5.1万票、前職・仁比聡平は九州地方などから3.9万票を得て当選している。少ない個人票でも徹底した地域割りをしていることが推定できた。

このふたつの組織政党は、いずれにせよ当

選議席を予測しながら、支持者または党员に特定候補者名への投票を徹底しており、選挙結果はほぼその予想通りの得票を得ていることになる。

自民党、民主党も支持団体・労組の組織を背景にした候補者が上位でそれぞれ当選しており、流動化している政治状況の中で、頼れるのは組織と「先祖返り」している様子が見られた選挙結果であった。

4. 衆院・参院の得票の推移と

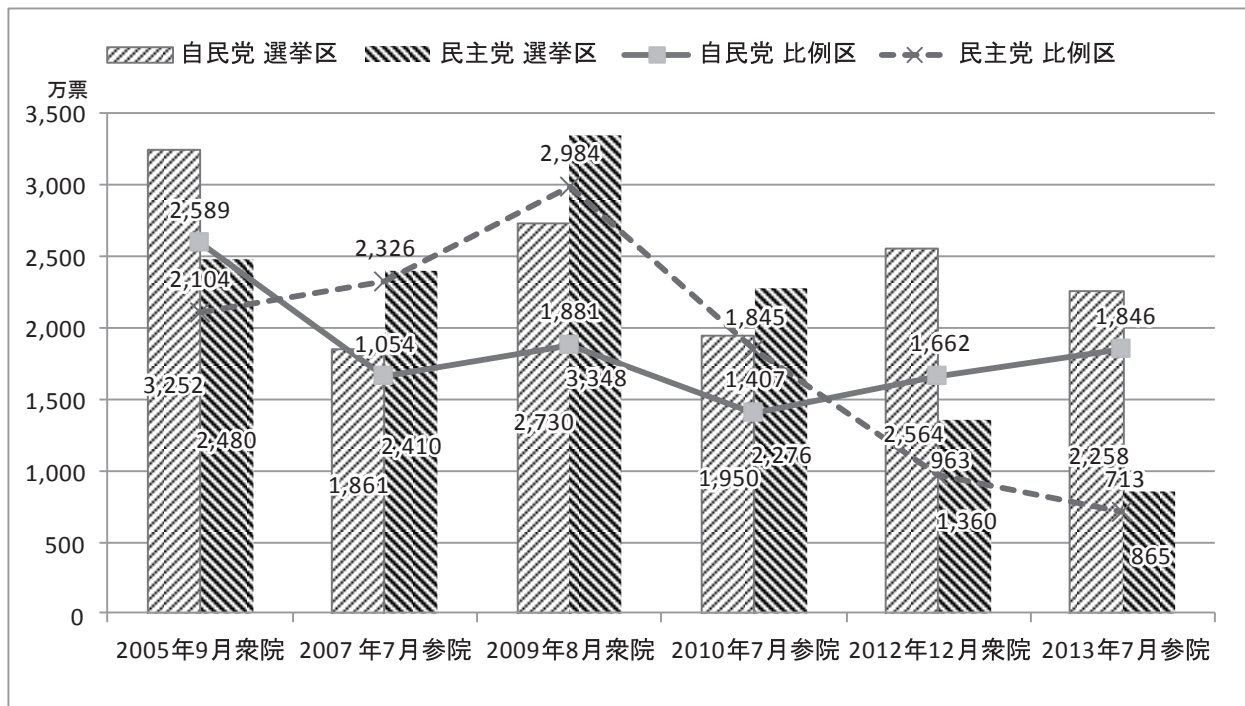
「ねじれ国会」の動き

(1) 2005年以降の国政選挙の動き

2005年から今回の参院選までの、国政選挙における2大政党の獲得得票の動きを見ると図表1-7の通りになっている。

2005年の総選挙「郵政選挙」では自民党が296議席と圧勝したが、得票では小選挙区では民主党を大きく上回っていたが、比例では民主党が上回っていた。

図表 1-7 自民・民主両党の得票推移



2007年の参院選では民主党が60議席（非改選を含め109議席）を獲得し、参院で初めて第1党となる勝利をおさめ「衆参ねじれ国会」となった。この選挙で民主党は選挙区・比例区ともに議席・得票で自民党を上回っていた。

2009年の総選挙で民主党が308議席と大勝し政権を獲得したが、当然得票は民主党が自民党を大きく上回り、この選挙で「ねじれ国会」は解消した。

その後、2010年の参院選で民主党が51議席（非改選を含めて106議席）で敗北して再び「ねじれ国会」となったが、このときは選挙区・比例代表でも民主党が得票数は上回っていたのである。既述した図表1-2のように、選挙区では議席は自民党が多く獲得したものの、3大都市圏を中心に民主党が複数当選を果たしたことなどから得票数は民主党が上回ったのである。また、自民党の非改選を含めた議席84議席にすぎず、公明党その他の野党を含めての過半数超えであった。

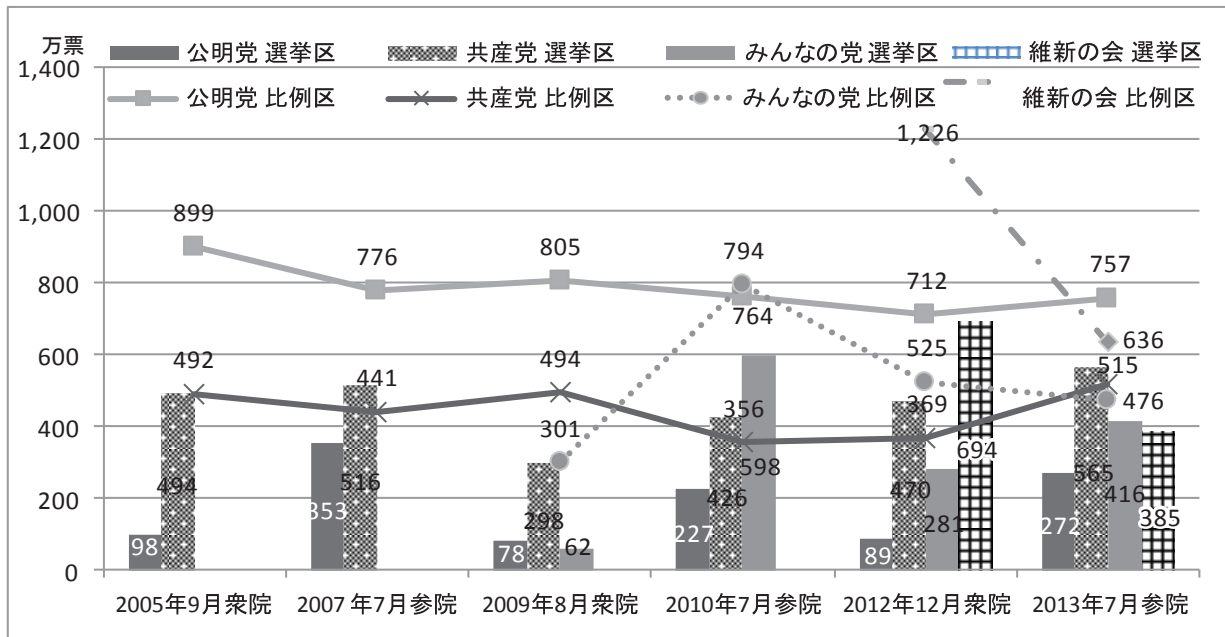
2012年の総選挙では自民党が294議席を獲得し、この圧勝により再政権交代が行われ、得票も小選挙区・比例代表ともに自民党が上回っていた。しかし2007年の参院選で民主党が大勝した議席が残っていたことと、自公以外の野党を含めると半数超えになることから「ねじれ国会」は解消しなかった。

今回の参院選で自民党が圧勝し、議席と得票も選挙区・比例代表ともに前回参院選を上回り「1強」体制となり、「ねじれ国会」は解消となった。

この間の民主党の得票の推移は、2009年をピークにして、選挙のたびに得票を減らしてきており、まさに凋落傾向を示している。小選挙区で2009年の3,348万票から3分の1の865万票（選挙区）に、比例代表は2,984万から4分の1の713万票に減るといふ完全な右肩下がりの状況となっている。

一方、公明・共産の組織政党と、第三極といわれるみんなの党・維新の会の得票の動きを見たのが図表1-8である。

図表 1-8 公明・共産・みんな・維新の得票数の推移



公明党は、衆院選では小選挙区に、参院選では選挙区に大都市を含む地域以外は候補者を立てないため得票数は小選挙区で78～98万票とかなり低い。比例代表では2005年の899万票をピークにやや下がる傾向は見られるものの700万票台の基礎票を維持してきている。この公明党の基礎票は、連立を組む自民党にとって小選挙区・選挙区において上乘せされることになり、この基礎票が自公政権の大きな支えになっていることがわかる。

共産党は、今回の参院選で選挙区・比例代表ともに得票を増やした。昨年の総選挙より投票率が下がったにもかかわらず、衆院選より選挙区で470万から565万票に95万票増やし、比例代表でも369万から515万票に146万票増加させている。今回の共産党の伸張ぶりを示すものであり、民主党が極端に低落して、リベラルや左派勢力を支持する層の受け皿として共産党が選ばれたと推測することができる。

みんなの党は、2009年の総選挙直前に結党し、2010参院選で躍進したものの、2012

年の総選挙では第三極が多党化したこともあって伸びることができなかった。今回の参院選では、2010年よりも得票は選挙区で598万から416万票に、比例代表で794万票から476万票にそれぞれ減らしたものの、改選議席を増やすことができている。しかし比例区得票率では栃木で25%、関東地方で15～16%と高いものの、他の地域では1桁台で、全国政党にはなりきれていない。

維新の会は、2012年9月に結党して以来、衆参両院の選挙を立て続けに闘ってきたが、総選挙での得票を、選挙区で694万から385万票に、比例代表でも1,226万から636万票にそれぞれ半減している。大阪府内での得票は選挙区・比例区ともに105万票で28%の高い得票率を得ているが、比例代表の得票率が兵庫で19%、奈良で18%と高いものの近畿地方全体では15%前後である。しかし、他府県では1桁の得票率にとどまっており、全国的な広がりは見られない。

(2)「ねじれ国会の解消」の意味を問う

衆参両院の多数派政党が異なる場合に「ねじれ国会」という言葉が使われる。1955年に左右社会党が統一し、保守合同により自民党が誕生した以降の政治状況を「55年体制」と呼んでいる。55年以前はしばしば「ねじれ国会」が生じていたが、この言葉は使われていない。

「55年体制」になって自民党一党による長期政権が30年以上続いたが、一党支配にその陰りが見えたのが1989年の参院選であった。それまで自民党は参院で140以上の議席を持っていたが、この年の選挙で36議席しかとれず、非改選議席を含めても109議席となり、当時の定数252の半数を大きく割ってしまった。社会党が大きく勢力を伸ばし、公明党、民社党など野党が参院の過半数以上を占めたのである。これが55年体制へ移行して初めての「ねじれ国会」となったのである。この選挙以降、一党だけで参議院の過半数を持つ政党は誕生していない。

この1989年以降ねじれ状態は継続するが、1993年の総選挙で自民党一党支配が崩れ、7党1会派による細川護熙連立内閣が誕生して、ねじれ国会は解消される。細川内閣で「政治改革関連3法」が成立した後に、羽田内閣が短期で終わり、まさかといわれた「自民・社会・さきがけ」による社会党党首の村山富市内閣が誕生した。この3党は衆参で多数派を握って政権は安定しており、1996年に自民党の橋本龍太郎内閣が同じ政党の組み合わせで誕生する。

1998年の参院選で自民党は44議席しかとれず非改選を含め103議席となり、社会・さきがけが連立の枠組みから離脱したため野党が過半数を占め、また「ねじれ国会」となった。橋本内閣が退陣した後に小淵恵三内閣ができるが、小淵内閣は1999年1月に自由党と連立を組み、さらに10月には公明党と3党連

立内閣を組むことによって参院の過半数を得て「ねじれ」が解消された。

2000年3月に、小沢一郎党首の自由党が自民党との合併を提案するが、小淵首相が拒否をしたため自由党は連立から離脱する。その直後に、小淵首相が入院して首相を辞任し、森喜朗内閣が誕生したが、自民・公明の連立は維持された。

翌2001年に自民党総裁に小泉純一郎が就任して小泉内閣が発足する。小泉内閣は2001年に参院選、2003年に総選挙、2004年に参院選、2005年に総選挙を闘うが、自民・公明での過半数体制を維持し長期政権となった。

2006年に小泉内閣が退任し安倍晋三内閣が誕生した。ここでも自民・公明体制は維持していた。2007年の参院選で自民党が37議席（非改選を含めて83議席）と大敗して、自民・公明で過半数を得られず、3度目の「ねじれ国会」となる。

2009年に政権交代の以降は、前章の通りである。（なお、2010年までの「ねじれ国会」における詳細な経過については、『自治研かながわ月報』2010年No.124特別号の拙稿「衆参ねじれ国会と参院のあり方をめぐって」を参照されたい）

ところで、この「ねじれ国会」について、今回の選挙中から「ねじれ解消」という言葉が政党のみならずマスコミからもたびたび登場していた。「ねじれ解消」という言葉には、衆参の多数派政党が異なっていること、そのことが異常な状態であって「解消されるべきである」という意味を含めて語られているようである。

現在の憲法が、選挙制度の違う衆参の二院制を規定している意味は、一院による多数の暴走を他院が抑制するためだといわれている。参議院の役割は、二院制の下で衆議院に対する抑制と均衡の役割を持つ、というのが

定説になっている。二院制は、それぞれの院が意思決定を行い、他院と牽制し合うことが大前提であり、異なる議決が出されれば両院で協議し合意形成をはかることこそ本来の議会ルールである。

「ねじれているから決められない」というのは、性急すぎる考えである。政党政治はそれぞれの政党の主張を持ちながらも、主権者の意思をより多く反映させて、いかに譲歩し合い妥協するかが課題とされる。討論に時間をかけ、合意形成の政治を目指すことこそが政党の役割である。

今回の選挙結果の報道を見ると、ほとんどの新聞で「自民大勝、ねじれ解消」という見出しが躍っていた。唯一、朝日新聞だけは「自公圧勝、衆参過半数／自民1強体制に」となっていた。8月の紙面審査会で渡辺勉・編成局長補佐は次のように述べている。

『今回の参院選報道では、他紙と違う紙面作りを常に心がけていた。他紙が「ねじれ解消」を見出しにすることは予想していた。しかし「ねじれ」自体が悪いわけではない。「ねじれ解消」とすると「ねじれ」が問題であるかのような印象を与えるので、「衆参過半数」とした。衆参ともに自民党が多数を占める結果となったことは「55年体制」の復活を思わせる大きな転換点にあることと考えて「自民1強体制」をキーワードにした。』

「自民1強体制」にはまだ違和感があるが、「ねじれ」そのものを正確に理解したうえでの「見出し付け」であったと評価しておきたい。

5. 自民党の勝因、民主党の敗因

(1) 自民党の勝因

昨年12月の再度の政権交代で第二次安倍内閣が発足したが、デフレ脱却に向けたアベ

ノミクスを打ち出した。大型補正予算による財政支出を行い、日本銀行総裁を新たに指名して「異次元の金融緩和」を行い、新たな成長戦略を閣議決定するなど景気回復に向けた政策を矢継ぎ早に打ち出してきた。株価の上昇とともに円安が進み、輸出企業を中心に業績向上が見られ、景気回復への期待が高まってきた。

また、第一次安倍内閣の時の失敗に学び、閣僚からの失言や不穏当な発言も見られず、首相自身の右翼的発言もきわめて控えめで、「安全運転」につとめてきた。消費税引き上げの時期など国民負担増についての決定は選挙後に先延ばしし、成長戦略も十分でないとする批判を受けるとすぐ追加策を表明するなど、大きな失政は見られなかった。

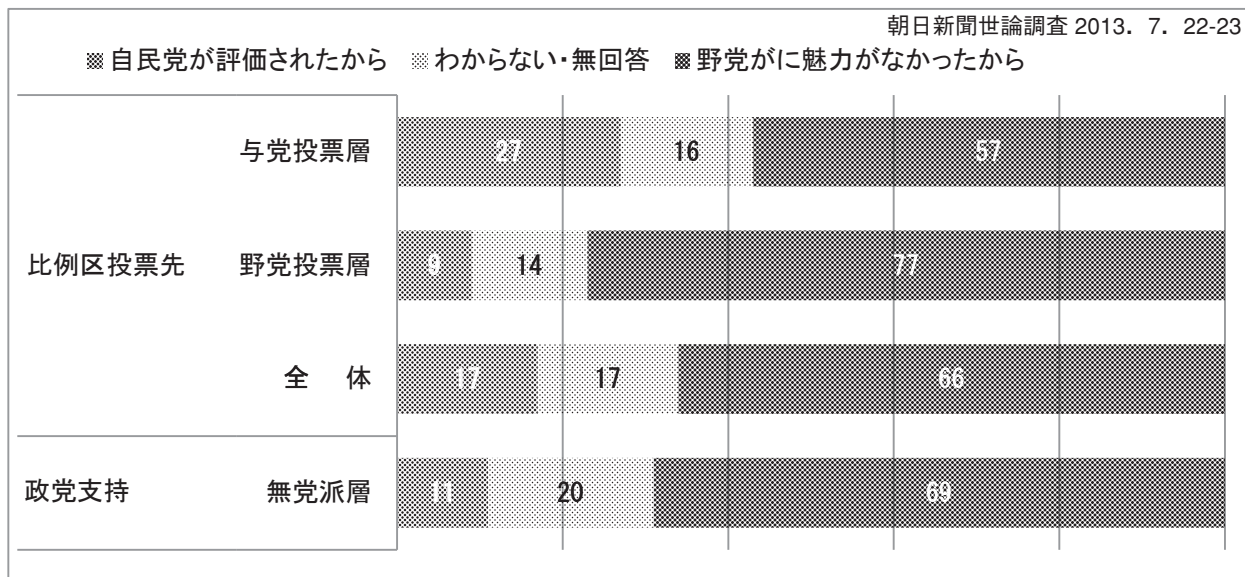
こうしたことから、安倍内閣支持率は、54～65%でほぼ60%台と高く維持されてきており、自民党への政党支持率も35～41%と高く推移してきた。これに対して政権を失った民主党は、やや虚脱状態となり、民主党の支持率は4～9%とまったく低迷を続けてきていた。

世論調査で「いま、参院選の投票をしたら、比例区ではどの政党に投票したいと思いますか」という質問でも、自民党が40～49%の高い支持率が見られていた。これに対して民主党はわずか6～9%と一桁にとどまっており、二大政党制とはいえない状況となっていた。

一方、第三極のうち維新の会は、世論調査の「参院比例区への投票先」としては、1月には16%と民主党を大きく上回っていたが、5月の橋下代表の「従軍慰安婦発言」以降大きく落ち込み、7%となっていた。みんなの党も5～7%であった。(以上、朝日新聞の世論調査より)

この世論調査の状況は参議院選挙の公示を迎えても、内閣支持率がやや下がる程度で、

図表1-9 自民党が大勝した理由は



大きな変化は見られなかった。そして、選挙中に行った世論調査による獲得議席の予想は、これらの数字を反映したものであり、冒頭述べた「自民党大勝へ」という自民圧勝・与党で過半数というものであった。

選挙区選挙では、既に見たとおり、自民党が31選挙区ある1人区で29議席を獲得し、民主党はゼロであった。1人区は小選挙区であり、自民に対抗する野党は選挙協力などまったくできないまま野党が競り合える選挙戦となり、自民党の圧勝を許してしまった。いわば、野党が弱すぎたのである。

選挙直後に行った朝日新聞の世論調査によれば、自民党が大勝した理由として「野党に魅力がなかったから」が全体で66%となっており、特に野党に投票した人は「野党に魅力がない」が77%にも達していた（図表1-9参照）。選挙前の5月と6月の同世論調査では「自民党に対抗する政党が必要」とする人は7割以上になっており、「対抗政党は必要」だが「野党に魅力がない」ため有権者の要望に応えられる政党がないことへの「いらだち」を読み取ることができる。

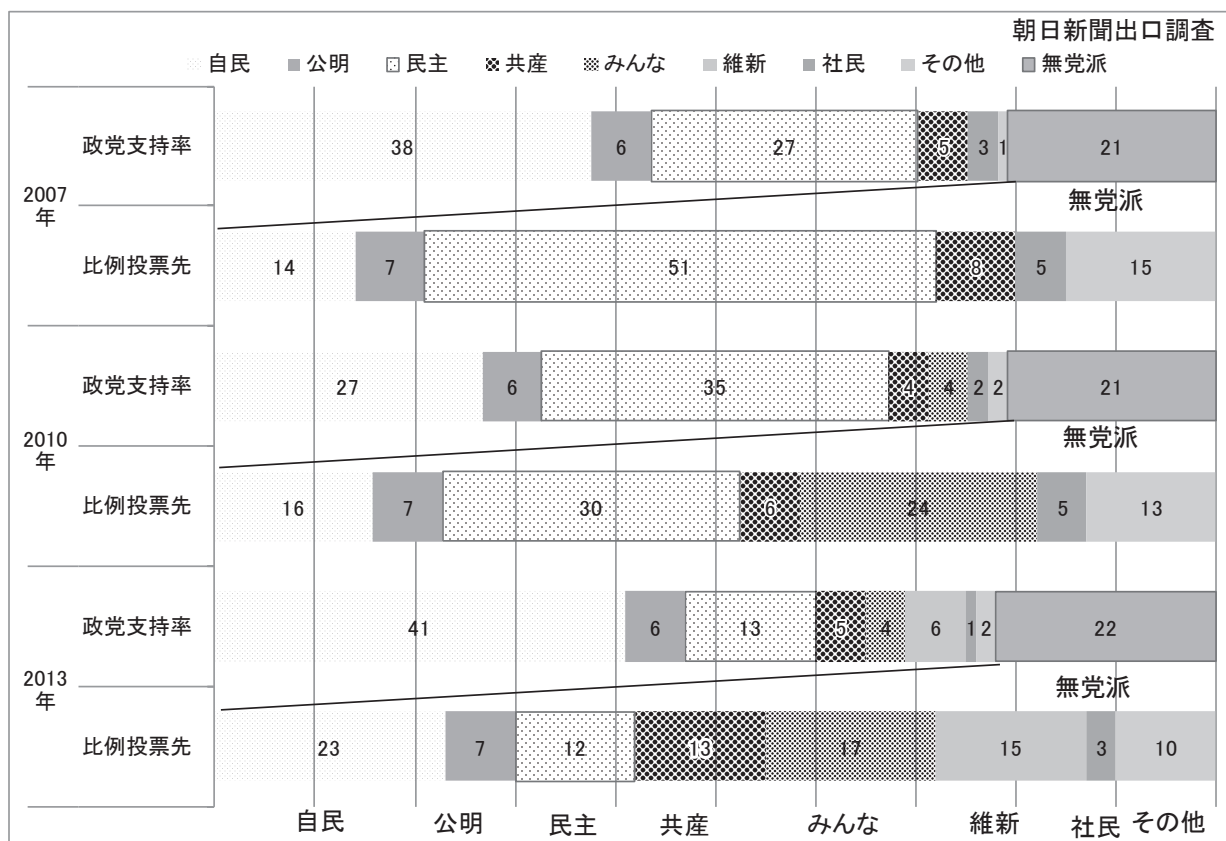
(2) 注目される無党派層の動向

比例代表で見ると、無党派層の動向が勝敗を大きく左右する傾向が明確である。各種の世論調査によれば、支持する政党を問われた場合に支持政党を明らかにするのは6割弱であり、「支持する政党はない」と答える人が常に3分の1以上に達しており、「分からない、答えない」人が5～7%程度あり、合わせて4割程度が無党派層とされている。この層の動向が常に注目されている。

図表1-10は、2007年以降の参院選で朝日新聞の行った出口調査によるデータで、政党支持率と無党派層がどの政党に投票したかをグラフにしたものである。通常の世界論調査では無党派層が4割程度いるののだが、実際に投票に行った人はかなり低くなっている。

経験則的には、無党派層の3分の1は政治に無関心で投票に行かない層であり、3分の1は政治に関心はあるが政治状況に応じて投票に行ったり行かなかったりする（「タテ移動」する）層で、3分の1は投票には行くがその都度投票先を変えることがある（「ヨコ移動」する）層だと言われている。したがって投票した人の中での無党派層は2割程度と

図表 1-10 政党支持率と無党派層の比例代表投票先(全国)



なっている。

2007年度の選挙では、無党派層は21%で、そのうち半数の51%が民主党に投票しており、自民党は14%にとどまり、これが民主党の勝利に結びついていた。政党支持率では自民38%、民主27%で自民が10ポイント高かったが、無党派の半数の支持を得た民主が支持率の低さを挽回したことになる。

2010年の選挙では、無党派層の民主党への投票は3割にとどまり、みんなの党が4分の1で、自民党が16%と前回より回復していた。これが、みんなの党の躍進と自民党の勝利に結びついていたが、民主党に得票数ではまだ及ばなかった。政党支持率でも民主党35%に対して自民党27%で前回から逆転しており、政権党であった民主党への支持が高かった。

今回は、民主党は半減し12%にとどまり、自民党が23%、みんなの党17%、維新の会

15%、共産党13%とそれぞれに無党派層の投票先が分散していた。政党支持率では自民が前回の27%から41%に拡大しており、無党派層からも最も多くの得票を得ていたことから、自民党の「1党勝利=1強」に結びついたことを裏付けている。

逆に、これまで民主党は無党派層からの支持に支えられて比例の得票を維持してきたのであるが、今回は政党支持率でも13%と激減し、無党派層からも見放されたことにより民主党が惨敗したものであると見ることができる。

(3) 民主党の敗北の原因

民主党の歴史を振り返ると、小選挙区比例代表並立制の下で勢力を拡大してきたことが分かる。1996年に新党さきがけや旧社会党などをつくったりベラルな旧民主党が、1998年に自民党離脱組を含めた保守的な旧新進党

の公明党を除く諸政党の国会議員だけで合同して、現在の民主党が結成された。保守系から社民系まで多様な価値観を持つ6つの政治集団が、小選挙区制のもとで生き残りをかけて勝利を目指すために、基本理念を棚上げしたまま大同結集がなされたのである。

そして2003年に小沢一郎党首の自由党と合同して二大政党の一翼を目指した。選挙に勝つこと、これが決定的に重要であり、その結果として政権交代をめざすことになる。2003年の総選挙で民主党は躍進し、2005年の郵政選挙では自民党に大きく敗れ、2007年の参院選では民主党が大勝するなど一進一退が続く。

こうした経過を見ると、選挙のたびに有権者の政党支持が大きく変化するなど、「かぜ次第」で勝敗が分かれる状況が続いていた。これに対応するためには、政党は基本理念に立ち返って政策変更を迫られていたのであるが、民主党は基本理念を棚上げしていたためこれに十分対応できずにいた。選挙に勝つために無党派層の動向のみが注目され、それに対応することだけを目指す大衆迎合路線に走っていった。

選挙のたびに勝利する政党が代わると、勝利した政党には多数の新人議員が誕生するが、次の選挙ではその新人も含めて現職議員の落選が続き、現職の当選率は下がってくる。国会議員として不可欠な質の高い政策の企画立案や、円滑な利害調整を行うための経験と訓練、国政運営の知識の蓄積が求められているにもかかわらず、選挙に勝つことだけを優先して選挙民受けの良い政策だけに力を入れるようになるのである。

そして、大衆受けの良い政策だけを並べたマニフェストが、党内の議論をほとんど経ないで数人の幹部によって作られ、選挙直前に発表される。事前に党内議論や大衆討議をするとその政策を相手政党にとられる恐れがあ

る、として秘密裡に作られるようになったとされていた。

組織の下部から政策論議を積み重ね、1年以上もかけてつくられる本場のイギリスにおけるマニフェストとは似ても似つかないものになっていく。また、保守からリベラルまで多様な層の政策を取り入れていくと「包括政党」となっていく、対立する自民党と政策も似通ったものになっていった。

自民党の長期政権に飽きた多くの国民の期待を受けて2009年に政権交代が起きた。しかし、政権運営についての未熟さが露呈し、内閣と党運営との不一致もあり、誤った「政治主導」のもとで官僚の協力を得られず行き詰まりをきたした。政策の中身について、基本理念の一致がないまま作られたマニフェストに載せたため矛盾が生じて、他党の追及を受け政策の修正を余儀なくされていった。「政策の中身」ではなく政権として「どのように実行するか」が問われていき、政権党として「実行できる能力」が不十分であることが露呈してしまったのである。

さらにマニフェストにない消費税の引き上げをめぐる、深刻な党内対立を生み出していった。党内の意見対立から小さな分裂・離党から始まって、消費税問題では決定的な亀裂を生じてしまった。政党としての基本理念の不一致のまま政権を獲得したため、その不一致が党内の対立と分裂を引き起こし、国民からの支持を失い、2012年の総選挙で民主党への「懲罰選挙」となり大敗したのである。

政権を失って、民主党は改めて「綱領」を大会で決定したものの、「中道」「中庸」という言葉も盛り込めず、「生活者」「働く者」の党を表明しても、政党政治のあり方を根底から変えるほどの意欲はうかがえなかった。綱領をつくり、党の再建に向けて進み出したものの、そのことが多くの有権者に受け入れられる時間もなく、参院選での敗北に結びつい

てしまったのであった。

6. インターネット解禁で 選挙への活用はどうだったのか

今回の選挙から、公職選挙法が改正されて、選挙活動に関してインターネットを活用することが可能になり、「ネット選挙解禁」の初めての選挙であった。

これまでは、公示後に候補者や政党のホームページへの書き換え・書き込みなどの変更も含めて、文書図画の不特定多数への配布にあたるとして、インターネットの活用は一切禁止されてきた。それが「インターネットの持っている双方向性を生かして有権者の声を生かすことができる」として、4月の法改正で解禁となった。

改正内容は、まずウェブサイトなどを利用して選挙活動を行うことができるようになったことである。これは誰でも、ホームページ、ブログ、SNS（ツイッターやフェイスブック、ラインなどの交流サイト）、動画共有サービス、動画中継サイトなどを使った選挙活動が可能になったのである。

ただし、全面解禁ではなく、候補者と政党は、ウェブサイトやSNSも含めて原則自由となり、電子メールによる文書や映像の配信も送信者の送信記録や送信者の氏名等を明記の上で利用できるようになったが、一般の有権者がメールによる投票依頼をすることなどの選挙活動は禁止されたままである。

一般の有権者でもSNSでのやりとりは自由になった。SNSは電子メールに似た機能を持っているが、発信者が特定でき、公職選挙法上の「電子メール」ではなく、ウェブサイト等に該当するためとされている。

「電子メール」が規制されるのは、電子メールは密室性が高く、誹謗中傷や「なりすま

し」に悪用されやすいこと、複雑な送信先規制等を課しているため、一般の有権者が違法行為を行ってしまう可能性が高く、それによって処罰され公民権停止になる危険性が高いこと、などがあげられている。こうしたことから第三者による送信をあらかじめ禁止することにより、事前にそのような事態に陥るのを防止しようとしたものとされている。

ウェブサイトでの選挙運動が自由化されたが、選挙運動のための有料インターネット広告については禁止されている。また、インターネットによる誹謗中傷や候補者になりすまして選挙運動を行うことは、氏名の虚偽表示罪の対象となり処罰される。また、候補者による選挙期日後にインターネットを使った挨拶行為は禁止されている。

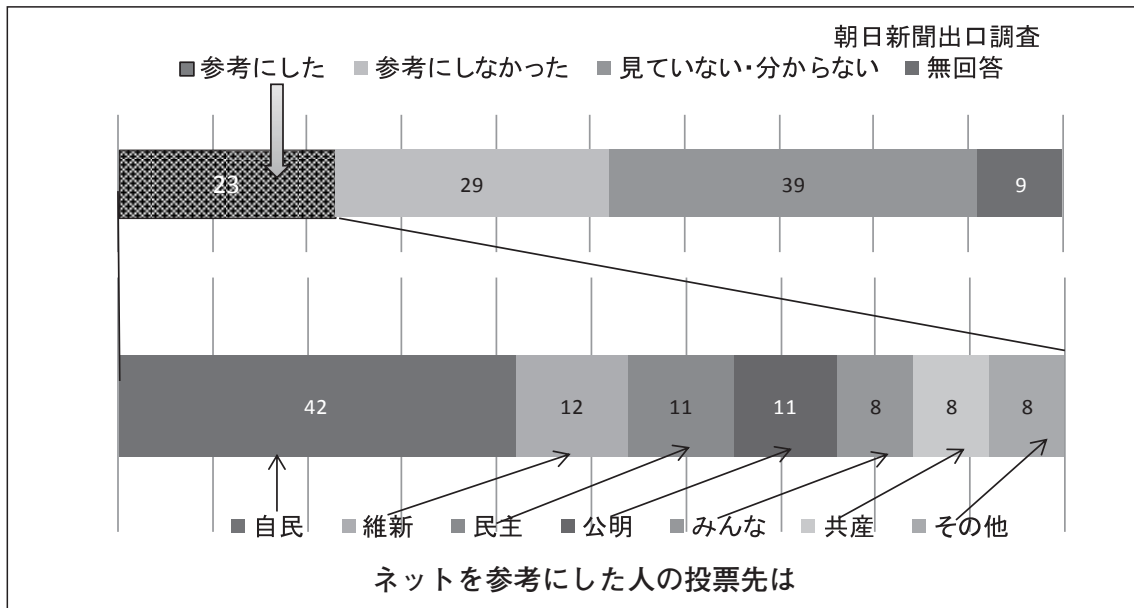
今回のネット選挙解禁は、必ずしも有権者に十分伝わっているとはいえない状況にあった。「インターネットで投票ができる」などと誤解している人もしばしば見られたという。

最も活用したのは、候補者と政党である。立候補者のうち9割は選挙運動にSNSを活用したという。候補者の94%がホームページを持ち、毎日更新しているのは37%といわれていた（朝日・東大谷口研究室調査7月10日）。

選挙運動を終えて事務所へ戻ると、事務所内に特設のスタジオを持ち、そこで有権者への呼びかけを行う映像を録画して、ホームページにアップする。また、遊説先での印象などをツイッターでつぶやく、こうした候補者も多かったようである。

これに対して、候補者や政党の発信したネット情報を見た人は30%で、そのうち政党や候補者の公式ホームページやブログが56%（複数回答）となっていた（日本経済新聞調査・7月26日朝刊）。

図表1-11 選挙にインターネットの情報を参考にしたか



しかし、一般の有権者の関心は必ずしも高くはなく、新聞社などの出口調査などによると、インターネットの情報を「参考にした」人は少なかったようである。

図表 1-11 は、朝日新聞の出口調査をもとに作図したものである。これによるとネット情報を「参考にした」のは23%で、「参考にしなかった」は29%、「見ていない・分からない」39%となっている。年代別では、「参考にした」のは20代で37%、30代で28%であるが、年齢が上がるにしたがって「見ていない・わからない」が上がって行く傾向が見られた。

同じく、読売新聞と日本テレビの共同出口調査では、「参考にした」は11%で、「参考にしなかった」が80%に及んでいた。さらに、共同通信の出口調査でも「参考にした」は10.2%で「参考にしなかった」は86.1%となっていた。

「インターネットの情報を参考にした」と答えた人に比例代表の投票先を聞くと、自民党が42%で、維新12%、民主・みんな11%

などとなっていた。実際の得票率は自民35%、民主16%、みんな14%、維新12%となっており、「ネットを参考に」した人は自民党への投票が大きかったことがわかる。

これは、自民党のネット選挙解禁に対応する取り組みが、他党よりも進んでいたためと思われる。朝日新聞のインターネットを利用する人のモニター調査で、政党代表者でネット上での発信力のあると思う人を聞いているが、自民党安倍総裁が39%、維新の会橋下代表26%で、「誰も発信力があると思わない」が41%となっていた。このように各党での取り組みに差があったようである。

ともあれ、選挙直前に解禁されたネット選挙は、選挙への関心を高める役割は果たせなかったようである。

第2 神奈川県内の選挙結果

1. 選挙区選挙の結果

神奈川県選出の選挙区選挙は、定数が3から4に1議席増えたことにより、生活の党を除く主要政党がすべて候補者を擁立し、11人が立候補して激戦が繰り広げられた。選挙結果は、自民、みんな、公明、民主の4党で議席を分けあった。図表2-1参照。

(1) 自民・島村圧勝、みんな・松沢が国政復帰、公明新人・佐々木初当選

自民党の新人・島村大は、経済の再生と専門の医療・介護の充実を訴え、113万票の大量得票を得て圧勝した。自民党への支持が拡大するなか、候補者を手堅く1名に絞って終始有利な闘いを進め、前回よりも約15万票を上乗せしてトップ当選を果たした。

衆議院議員の後援会や党支部をこまめにまわって支援を訴え、出身の歯科医師会連盟など多くの業界団体の推薦も受けて、手堅い組織選挙を積み重ねてきた。県連会長を務める菅義偉・内閣官房長官や、小泉進次郎・党青年局長など著名な政治家も県内入りして支持を訴えていた。

参院選選挙区で県内の最高得票は、2001年に自民党の小林温が129万票を得たのがトップである。続いて2004年に自民党・小泉昭男の121.7万票が2位であり、3位は「おたかさんブーム」が起きた1989年に社会党・小林正が117万票を得てこれに続いている。今回の島村の得票は、これに続く歴代4位の得票ということになる。

前知事の松沢成文は、みんなの党の公認を得たのが5月でやや出遅れが懸念されていたが、県知事2期の実績と高い知名度により無党派層からも多くの支持を得て、74万票で

図表2-1 参議院神奈川県選出議員選挙

	候補者氏名	年齢	現新	所属党派	得票数	得票率
当	島村 大	52	新	自由民主党	1,130,652	28.8%
当	松沢 成文	55	新	みんなの党	740,207	18.8%
当	佐々木 さやか	32	新	公明党	629,662	16.0%
当	牧山 弘恵	48	現	民主党	461,006	11.7%
▽	畑野 君枝	56	元	日本共産党	444,955	11.3%
▽	水戸 将史	50	現	日本維新の会	242,462	6.2%
	露木 順一	57	新	みどりの風	119,633	3.0%
	木村 栄子	65	新	社会民主党	76,792	2.0%
	溝口 敏盛	66	新	維新政党・新風	41,359	1.1%
	森下 正勝	69	新	無所属	30,403	0.8%
	及川 幸久	53	新	幸福実現党	10,006	0.3%
	合計			—	3,927,137	100.0%

▽は、法定得票に達したものの

参院での初当選となった。2011年の統一地方選で議席を増やしたみんなの党の県議や市議とともに、県内をきめ細かくまわり、自民党に対抗できる「第2極」の必要を訴え、支持を広げていった。

松沢は、松下政経塾出身で、県議2期を経て自民党から分かれて結成された新生党から1993年の衆議院に出馬して初当選、新進党の結党に参加して1996年に再選したものの、新進党が解散したため民主党に合流して2000年に3期目の衆議院に当選する。2003年に民主党を離れ県知事に出馬して当選し、2期務めた。2011年には東京都知事選への出馬を目指す、石原都知事が自ら出馬を表明したため、出馬を断念するなど、波乱の多い政治活動をしてきている。

公明党は、今期で引退する松あきらの後継者として、32歳の弁護士・佐々木さやかを擁立し、知名度の不足を組織力で補って3位で初当選を果たした。県内各地の事務所や、創価学会の集会をこまめにまわり「生活の安定、社会の安定と政治の安定」を訴えた。現職の松たか子が終始寄り添い、公示後は山口代表や太田国土交通相ら党幹部も応援に入り、組織をあげての闘いを展開していた。6年前の松たか子の得票には及ばなかったものの、62.9万票を得て議席を維持した。

佐々木は、青森県出身、2006年に創価大学大学院を修了し、司法試験に合格、2007年に弁護士登録。公明党の女性局次長、青年局次長として、生活現場の最前線で様々な問題解決に取り組んできた確かな「経験」と「知識」を生かすと訴えていた。

(2) 民主・牧山は薄氷の勝利、

共産・畑野、議席奪還ならず

退潮に歯止めがかからない民主党は、2期目の牧山弘恵を唯一の候補として必勝を期し、1議席の定員増に助けられ、薄氷を踏む

思いで最後の議席を得ることができた。6年前に民主党が2名当選した選挙で、牧山は101万票という大量得票を得ていたが、その勢いは全くなかった。目標とした80万票には遠く及ばなかったが、最大の支援組織である連合神奈川に大きく依存しながらも、46.1万票を得て結党以来の議席を維持することができた。

昨年末の総選挙で多くの代議士を失い、議員秘書が激減したため、選挙の実務を担う人員が足りなくなっていた。地方議員の動きも鈍く、牧山自身も地域での活動をあまり重視してこなかったきらいもあった。最終的には、連合の組織内で9単産が比例代表の候補者を抱えており、比例への投票に合わせて選挙区の牧山へも上乘せをすることを強く要請し、それが奏功して最後の議席を確保できたといえる。

共産党の畑野君枝が、最後の1議席をめぐって激しく追い上げていた。6月の都議選で民主党を追い越して第3党に進出した勢いもあり、自民党と明確な対抗軸をもつ政党として反原発、改憲阻止、消費税引き上げ反対などを訴えた。志位委員長や党幹部も応援に入り、「自共対決」を明確にさせながら無党派層の支持拡大を目指した。しかし、わずかに1万6千票及ばず44.4万票にとどまり、畑野自身の15年ぶりの議席回復はならなかった。

選挙中の世論調査を見ると、自民・みんな・公明はほぼ当選ラインに入っていると報道されていた。最後の1議席を、民主・共産・維新で争うとの見方が大勢で、共産やや有利との報道もあった。出口調査では全くの互角か、共産・畑野がリードの情報もあり、民主・牧山の当選確実の報道が選管確定まで出されなかった。

民主・牧山と共産・畑野の得票を地域別に比べると、横浜市内では約1万票差で牧山が

勝っていたが、川崎では逆に1.3万票畑野が勝っており、残りの都市部での勝負であった。相模原で5千票、横須賀、藤沢、小田原、そして県央各市で牧山がわずかずつリードを広げて、川崎の劣勢を取り戻したかたちとなっていた。この僅差の激戦は、1998年の民主・千葉景子と無所属・ツルネン・マルテイの8千票差という超激戦以来の接戦であった。

(3) 維新・水戸議席を守れず、

みどり・露木、社民・木村届かず

維新の会の水戸将史は、昨年9月、日本維新の会が結成される時に民主党から鞍替えした。2007年に民主党が2議席を獲得した時に78万票で初当選していたが、民主の党勢の衰退を見限って維新の会に移ったといわれていた。しかし、維新の会の勢いは橋下代表の「従軍慰安婦発言」以降大きく落ち込み、議席を確保することができなかった。比例代表の得票41万票の半分24.2万票しかとれず、維新の会と水戸が結びついていなかったのが敗因である。

みどりの風の露木順一は、元開成町長で、

一昨年の知事選、昨年の衆院選にも立候補しているが、今回「脱原発」を掲げたみどりの風から立候補した。ただ立候補を決めたのが公示1月前で、出遅れは否めず、足柄上郡では1万票近くの高得票を得たものの、11.9万票で当選圏内には入れなかった。

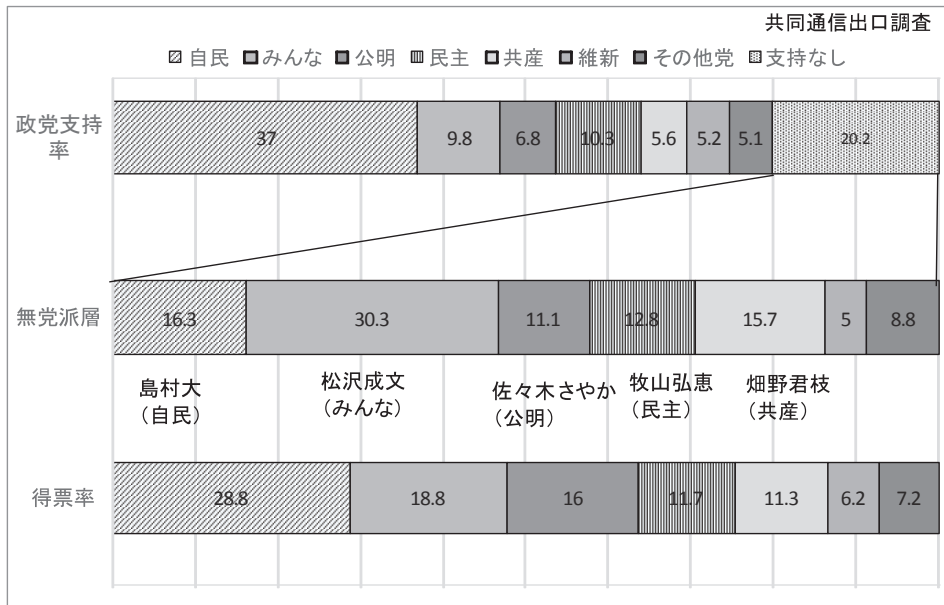
社民党の木村栄子は、2010年に続いたの挑戦であったが、党勢の退潮は否めず、前回よりも3万票以上得票を減らし、7.6万票で議席には届かなかった。藤沢市議時代から「脱原発」を訴え続けていたが、同じ主張の候補者の乱立によって埋没してしまった。

そのほかに無所属と諸派の候補者3名が立候補していたが、いずれも、1～4万票で法定得票に達しなかった。

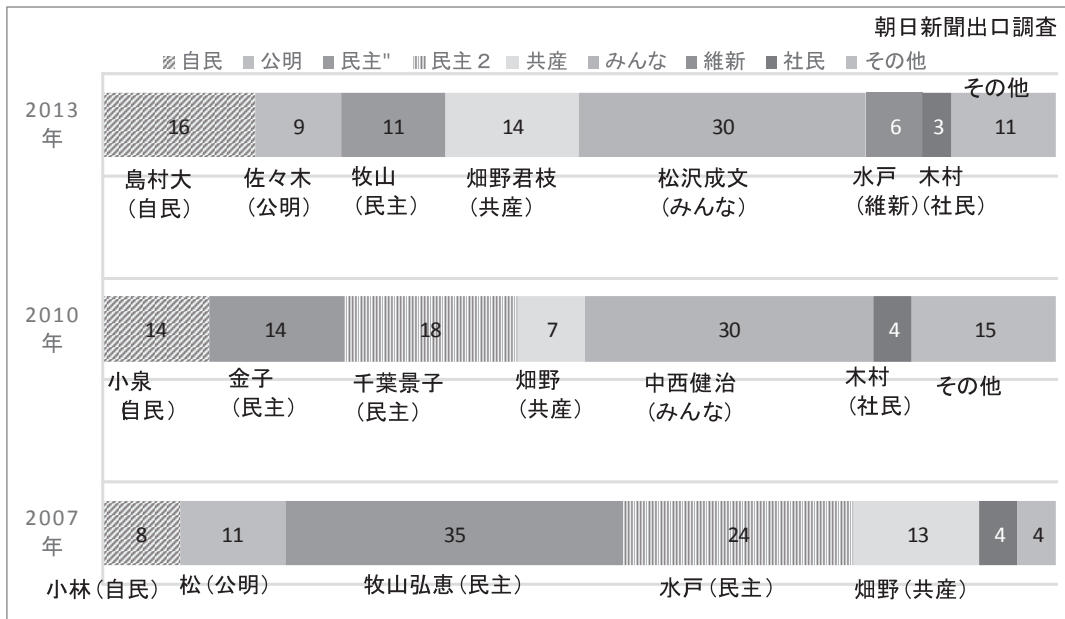
(4) 自民・みんな圧勝、
民主・辛勝の要因

選挙区選挙における得票は、政党支持率の大きさと、無党派層からの支持が勝敗を左右する。今回の選挙の出口調査からその傾向を見ていこう。

図表 2-2 政党支持率と無党派層の投票先



図表 2-3 無党派層の投票先・神奈川選挙区



図表 2-2 は、共同通信の出口調査をグラフ化したものである。政党支持率では自民党が 37%と圧倒的に高く、民主 10.3%、みんな 9.8%などとなっていた。自民の島村は、この厚い自民支持層の 4 分の 3 を固めたといわれており、圧勝の要因となっていた。

また、「政党支持なし」の無党派層は 2 割であるが、無党派層の投票先は、みんな・松沢へ 3 割と圧倒的に大きくなっており、松沢の 2 位当選の要因となっていた。続いて、自民・島村の 16.3%、共産・畑野の 15.7%、民主・牧山の 12.8%となっていた。無党派層では、民主よりも共産へ多くの支持が移っており、共産の躍進の要素をここに見ることができる。民主と共産の激戦も、政党支持率でやや高い民主に軍配が上がったが、民主に変わるリベラル・革新系の受け皿に共産党がなっていたことが認められる。

一方、朝日新聞の出口調査で、過去にさかのぼって無党派層の投票行動を見たのが図表 2-3 である。今回の選挙における無党派の動向は、共同通信の調査とほとんど変わっていない。したがって、無党派から高い支持率を得た自民が圧勝し、最も多いみんなの党が

2 位になり、堅い組織票を持つ公明が 3 位となったわけである。ここでも共産党が民主党を上回り、激戦のあとがうかがえた。

民主党の凋落ぶりがここでも明らかになっている。2007 年では民主・2 人の候補者に無党派層の約 6 割が投票し、民主の圧勝をもたらしていた。2010 年には、みんなの党・中西が今回と同じ 3 割を獲得し、民主党の 2 候補は合わせて 3 割を超えてはいたが、2007 年からみるとほぼ半減となっていた。今回は、それよりもさらに少なくなり、3 分 1 にまで減ってしまっている。その要因は、全国の結果で分析したとおりである。

2. 比例代表の選挙結果

神奈川県内の比例代表の得票は、党派別には図表 2-4 の通りである。自民、みんな、民主、公明、維新、共産の順になっていた。

(1) 党派別得票の状況

自民党が 134 万票を獲得し、得票率で 34%を占め圧倒的に多かった。前回の 81 万

図表 2-4 参議院比例代表選出議員選挙

政党等名	得票数	得票率	党名票	党名率
自由民主党	1,346,664	34.3%	1,109,766	82.4%
みんなの党	570,169	14.5%	496,277	87.0%
民主党	481,168	12.2%	324,064	67.3%
公明党	444,670	11.3%	389,730	87.6%
日本維新の会	410,505	10.4%	346,612	84.4%
日本共産党	400,561	10.2%	373,262	93.2%
社会民主党	89,178	2.3%	79,756	89.4%
生活の党	63,016	1.6%	51,300	81.4%
みどりの風	51,584	1.3%	44,042	85.4%
緑の党グリーン	47,339	1.2%	26,274	55.5%
新党大地	17,278	0.4%	13,538	78.4%
幸福実現党	9,063	0.2%	7,113	78.5%
合計	3,931,200	100.0%	3,261,734	83.0%

合計は、按分票の端数切り捨てのため一致しない

票から 53 万票も大きく得票を伸ばし、2001 年に獲得した 136 万票に次ぐ歴代 2 位の得票を獲得したことになり、神奈川でも「1 強体制」の状況になったことを示している。

続いて、みんなの党が選挙区でも 2 位当選した勢いを反映して 57 万票を獲得し、得票率 14.5%であった。前回の 88 万票からは 31 万票減らしているが、いわゆる第三極の政党が多党化したことによる目減りである。

民主党は、比例では第 3 位の 48 万票で得票率 11.3%であった。前回の 121 万票より 73 万票も激減し、結党以来最低の得票となってしまった。2004 年以降 3 回続けて比例代表で県内 1 位を続けてきたが、自民とみんなの党にまで抜かれることになってしまったのである。

公明党は、44 万票で 11.3%で、投票率が下がったものの、前回の 49 万票より 5 万票の減少にとどまっていた。過去 5 回の参院選では 2003 年に最も多い 54 万票を獲得しているが、その後はやや伸び悩み、このピーク時より 10 万票の減少となっていることが目に

ついた。

初めての参院選となった維新の会が 41 万票で 10.4%獲得している。選挙区選挙の 24 万票のほぼ倍となり比例が大幅に多くなっていたが、昨年の総選挙での比例 81 万票から比べると半減したことになる。

共産党は 40 万票で 10.2%となっていた。投票率の低下にもかかわらず、前回より選挙区で 14 万票増やすとともに、比例でも約 16 万票増加させ、躍進した状況をあらわしていた。1998 年に畑野が選挙区で当選しているが、そのときに比例で 56 万票を獲得しており、これがピークでその後下がってきていたが、今回は歯止めがかかったといえよう。

社民党、生活の党、みどりの風など 3 党はそれぞれ 10 万票にも及ばず、得票率も 1～2%台にとどまっていた。

以上のとおり、民主・公明・維新・共産までが 40 万票で並んでいる。得票率はみんなの党を含めて 5 党が 10%台となっており、野党の多党化・分散化が見られる神奈川の状況であった。

図表 2-5 県内比例代表 得票ランキング (1万票以上の得票を得た候補者)

順位	当落	候補者名	党名	現新	得票	職業・前職など
1	当	磯崎 哲史	民主	新	32,890	自動車総連・日産労組
2	当	平木 大作	公明	新	30,778	元コンサル社員
3	当	井上 義行	みんな	新	27,643	元首相補佐官・内閣府
4	当	佐藤 正久	自民	現	24,717	元陸上自衛官
5	落	ツルネン マルティ	民主	現	24,119	元湯河原町議・参院議員
6	当	アントニオ 猪木	維新	元	23,240	元プロレスラー・政党代表
7	当	石上 俊雄	民主	新	21,606	電機連合・東芝労連
8	当	石井 みどり	自民	現	20,793	歯科医師政治連盟
9	当	山東 昭子	自民	現	19,164	女優・参院議員
10	当	中山 恭子	維新	現	18,613	元拉致問題担当相
11	落	三宅 洋平	緑グリーン	新	18,239	音楽家・元リクルート社員
12	当	橋本 聖子	自民	現	18,019	スケート選手・参院議員
13	落	菅原 直敏	みんな	新	17,482	元神奈川県議・大和市議
14	当	赤池 誠章	自民	新	16,939	明大客員教授
15	当	丸山 和也	自民	現	16,591	弁護士・元タレント
16	当	小池 晃	共産	現	16,116	党副委員長・医師
17	当	渡辺 美樹	自民	新	13,593	元ワタミ会長
18	当	川田 龍平	みんな	現	12,688	元薬害訴訟原告・参院議員
19	当	柘植 芳文	自民	新	12,546	全国郵便局長会
20	当	神本美恵子	民主	現	11,195	日教組・参院議員
21	当	大島 九州男	民主	現	10,983	元直方市議・立正佼正会
22	当	山田 俊男	自民	現	10,369	元JA全中専務理事
23	当	相原久美子	民主	現	10,282	自治労・参院議員

(2) 個人別得票の状況

県内の比例の得票で、名簿登載の候補者名で投票した得票のうち、1万票以上獲得したランキングを示したのが図表 2-5 である。

トップは、民主の新人・磯崎哲史で3万2千票あまりを獲得している。磯崎は、地元の日産労組出身で選挙上手といわれた組織を背景に、県内で着実に得票を重ねて全国で14位となる27万票を得て、民主の1位で当選を果たしている。

2位は公明の新人・平本大作であり、3万票を県内で得て、関東地方を中心に得票を伸ばし77万票を獲得し全国で2位の好成績で当選している。公明党は個人票の割合が全国的には半数以上(56%)を超え、その地域割

りは徹底しているのを第1章で述べている。しかし、神奈川での個人票は12%と極端に低く、また東京・埼玉の3都県だけが個人票が10%台と極端に少なくなっていたのが目についた。

3位はみんなの党の新人・井上義行で、2万7千票を獲得した。小田原市出身で国鉄民営化のあおりを受けて内閣府に移り、第1次安倍内閣で首相補佐官を務めた。2009年と2012年の総選挙で神奈川17区から立候補するが落選していた。今回、みんなの党の躍進に乗って4万7千票を全国から集めて初議席を獲得した。

4位は自民の現職・佐藤正久で2万7千票を獲得した。防衛大学出身の元陸上自衛隊員

で、自衛隊イラク派遣では第一次復興業務支援隊長を務め「ひげの隊長」とよばれ広く知られるようになった。2007年に自民党から比例で当選し、第2次安倍内閣で防衛政務官を務めている。今回も自衛隊の組織票をまとめ、32万票を得て自民の3位で再選を果たした。

5位は民主の現職・ツルネン・マルテイで2万4千票を獲得したが、神奈川以外での得票が伸びず民主党の9位となったものの当選できなかった。フィンランド出身で湯河原町議から2001年に参院選に出馬したが次点となり、2002年に繰り上げ当選を果たした。2007年に再選しているが、今回は民主党全体の得票が下がったことにより当選枠が少なくなったため議席を失った。

6位は維新の会の元職・アントニオ猪木で2万3千票を獲得し、全国でも35万票を得て維新の会のトップで返り咲きを果たした。鶴見区出身の元プロレスラーで、1989年にスポーツ平和党を結成し参議院議員に当選した後もプロレスを続けていた。1995年の参院選では落選し、プロレスラーに戻るが、1998年に現役を引退し、興行プロデュースなどを行ってきた。

以下、7位には民主の電機連合・東芝労組の新人・石上俊雄が初当選、8位は自民の歯科医師政治連盟の石井みどりが再選を果たした。9位は自民の元俳優の山東昭子が参院では最長の7期目の当選を果たし、10位は維新の会の元拉致問題担当相で特命全権大使を務めた中山恭子が再選を果たしている。

11位が異色のロック歌手でみどりの風から出馬した三宅洋平である。県内では1万8千票を得ているが、ブログやツイッター、メールなどインターネットを駆使した選挙戦を繰り広げ、全国で17万6千票を獲得した。しかし、みどりの風全体の得票が43万票で、落選者の中では最高得票を得ながら当選でき

なかった。

むすびにかえて

以上のように、神奈川県内の選挙結果を見てきたが、神奈川における自民・新人の圧勝と公明・新人の当選、そして両党による比例代表の大量得票は、全国的傾向をなぞったような状況であった。また、共産党の躍進は、選挙区での議席獲得こそならなかったものの、都市部における政治的不満層の受け皿となったことは間違いがない。民主党の凋落は、辛うじて選挙区の議席を守ったものの、比例での大幅な得票の減少も全国的傾向と同様であった。

神奈川の政治風土として「神奈川が変われば日本が変わる」とかつて長洲一二知事が言ったように、全国の政治状況を先取りする傾向が見られる。よく言えば「進取の気鋭に富む」ということであり、悪くいえば「新しいもの好き」と言える。前回の総選挙以降、みんなの党が小選挙区・選挙区で議席を得ていることや、維新の会とともに比例で大量得票を得たことなどに端的に表れている。

こうした都市部特有の政治風土とともに、巨大な自・公の与党と、保守的傾向を強める第三極の動きがみえてきており、二大政党制が衰退し、野党の多党化と合わせて総保守化ともいわれる状況になってきている。集団的自衛権の憲法解釈の変更や、憲法改正の動き、経済成長と効率だけを追求する動きなどにより、人々の暮らしが脅かされようとしている。これに抗する勢力の結集、中道・リベラル、市民・リベラルの勢力をいかにしたら再生できるのかが課題となっている。

1994年の「政治改革」によって導入された衆議院の「小選挙区比例代表並立制」、2001年から実施されている「選挙区選挙と

非拘束名簿式比例代表制」が、二大政党制を目指すものとされてきていた。しかし、小選挙区（1人区）を中心にして衆院・参院の勢力が選挙ごとに交代し、「ねじれ国会」を産み、政治の流動化をもたらしてきている。

自公の大勝により、今後3年間は「黄金の3年＝政治安定期」であるとするれば、この時期に、腰を据えて政治構造や選挙制度を含めた抜本的な改革の議論が始められる必要があ

る。二院制の下における政治のあり方、国会運営のあり方を改革し、選挙制度を含めて正確な民意の反映をもたらす政治体制の再構築が求められていると言えよう。

資料編：第23回参議院議員通常選挙の結果

資料1	都道府県別有権者数、投票者数、投票率(選挙区)	29
資料2	第23回参議院選挙 都道府県別 各党派別 得票・得票率	30
資料3	過去の参院選の結果との比較 全国/神奈川県内	32
資料4	参議院選挙における党派別当選者数と勢力の変遷	34
資料5	比例代表 全国得票上位100人	35
資料6	参議院神奈川県選出議員選挙 党派別(候補者別)得票	36
資料7	参議院比例代表選挙 神奈川県内党派別得票	39
資料8	神奈川県選出参議院議員	42

資料1 都道府県別有権者数、投票者数、投票数（選挙区）

区 分	有権者数	投票者数	(A) 投票率 %			増 △減		参院定数	
			評価	2013年	2010年	2007年	対10年		対7年
北海道	4,598,957	2,502,360		54.41	61.89	62.40	△ 7.48	△ 7.99	2
青森県	1,145,833	529,933		46.25	54.55	53.88	△ 8.30	△ 7.63	1
岩手県	1,090,900	627,548		57.53	60.36	63.40	△ 2.83	△ 5.87	1
宮城県	1,906,260	967,382		50.75	53.34	55.79	△ 2.59	△ 5.04	2
秋田県	904,796	508,419	▼	56.19	65.05	67.70	△ 8.86	△ 11.51	1
山形県	951,018	577,852		60.76	63.97	67.29	△ 3.21	△ 6.53	1
福島県	1,617,622	881,966		54.52	61.63	61.57	△ 7.11	△ 7.05	1
茨城県	2,418,255	1,200,802		49.66	55.11	54.00	△ 5.45	△ 4.34	2
栃木県	1,625,367	807,716		49.69	56.59	56.66	△ 6.90	△ 6.97	1
群馬県	1,621,683	839,213	▼	51.75	58.55	54.60	△ 6.80	△ 2.85	1
埼玉県	5,882,567	3,012,558		51.21	55.83	56.35	△ 4.62	△ 5.14	3
千葉県	5,062,684	2,491,826		49.22	54.85	55.14	△ 5.63	△ 5.92	3
東京都	10,777,333	5,767,098		53.51	58.70	57.87	△ 5.19	△ 4.36	5
神奈川県	7,365,069	4,011,927		54.47	55.56	56.32	△ 1.09	△ 1.85	4
新潟県	1,952,022	1,089,704		55.82	60.99	64.58	△ 5.17	△ 8.76	2
富山県	894,714	449,459		50.23	64.86	64.96	△ 14.63	△ 14.73	1
石川県	940,663	517,180		54.98	59.86	62.90	△ 4.88	△ 7.92	1
福井県	648,742	348,905		53.78	65.26	63.25	△ 11.48	△ 9.47	1
山梨県	696,851	394,791		56.65	64.04	63.65	△ 7.39	△ 7.00	1
長野県	1,746,474	1,008,064		57.72	64.72	65.04	△ 7.00	△ 7.32	2
岐阜県	1,675,924	887,782	▼	52.97	59.75	61.47	△ 6.78	△ 8.50	1
静岡県	3,066,436	1,566,616		51.09	57.37	58.41	△ 6.28	△ 7.32	2
愛知県	5,886,532	3,099,523		52.65	57.46	59.12	△ 4.81	△ 6.47	3
三重県	1,497,457	865,767		57.82	60.85	60.58	△ 3.03	△ 2.76	1
滋賀県	1,120,853	593,560		52.96	60.82	60.32	△ 7.86	△ 7.36	1
京都府	2,099,140	1,092,693		52.05	53.71	56.37	△ 1.66	△ 4.32	2
大阪府	7,116,682	3,752,106		52.72	56.35	55.81	△ 3.63	△ 3.09	4
兵庫県	4,545,807	2,410,407		53.02	54.41	56.61	△ 1.39	△ 3.59	2
奈良県	1,150,156	638,808		55.54	59.11	60.77	△ 3.57	△ 5.23	1
和歌山県	835,882	459,228		54.94	59.38	59.34	△ 4.44	△ 4.40	1
鳥取県	482,192	283,900	▼	58.88	65.77	67.67	△ 6.89	△ 8.79	1
島根県	587,809	357,932	▼	60.89	71.70	71.81	△ 10.81	△ 10.92	1
岡山県	1,576,112	770,478		48.88	56.97	59.17	△ 8.09	△ 10.29	1
広島県	2,324,694	1,162,108		49.99	53.51	56.91	△ 3.52	△ 6.92	2
山口県	1,189,566	598,922	▼	50.35	61.91	62.02	△ 11.56	△ 11.67	1
徳島県	651,117	320,964		49.29	58.24	58.47	△ 8.95	△ 9.18	1
香川県	826,930	430,704		52.08	57.71	58.84	△ 5.63	△ 6.76	1
愛媛県	1,182,796	584,321	▼	49.40	57.56	61.91	△ 8.16	△ 12.51	1
高知県	627,921	313,269	▼	49.89	58.49	58.40	△ 8.60	△ 8.51	1
福岡県	4,117,671	2,032,478		49.36	56.07	54.83	△ 6.71	△ 5.47	2
佐賀県	685,201	359,790		52.51	63.05	62.86	△ 10.54	△ 10.35	1
長崎県	1,162,606	628,319		54.04	61.30	61.54	△ 7.26	△ 7.50	1
熊本県	1,484,583	776,404	▼	52.30	61.91	63.11	△ 9.61	△ 10.81	1
大分県	981,222	521,509		53.15	62.96	63.04	△ 9.81	△ 9.89	1
宮崎県	931,962	464,278		49.82	56.77	56.79	△ 6.95	△ 6.97	1
鹿児島県	1,394,995	703,305	▼	50.42	58.36	60.67	△ 7.94	△ 10.25	1
沖縄県	1,102,534	589,053		53.43	52.44	60.32	0.99	△ 6.89	1
計	104,152,590	54,798,927	10	52.61	57.92	58.64	△ 5.31	△ 6.03	73

評価欄の▼は、戦後最低の投票率。

資料 2-1 第23回参議院選挙 都道府県別 各党派別 得票・得票率 2013.7.21 執行参議院選

		有効投票		自民党		民主党		公明党		みんなの党		共産党		維新の会		社民党	
		得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率
北海道	選挙区	2,397,220	903,693	37.7%	583,995	24.4%		0.0%	261,802	10.9%	272,102	11.4%					
	比例区	2,429,082	733,066	30.2%	408,021	16.8%	345,704	14.2%	153,752	6.3%	261,323	10.8%	146,050	6.0%	39,405	1.6%	
青森	選挙区	509,546	261,575	51.3%					63,528	12.5%	48,290	9.5%					
	比例区	508,109	212,353	41.8%	56,388	11.1%	65,501	12.9%	41,369	8.1%	47,484	9.3%	34,149	6.7%	17,493	3.4%	
岩手	選挙区	612,813	161,499	26.4%	62,047	10.1%					46,529	7.6%					
	比例区	593,861	196,201	33.0%	83,953	14.1%	53,051	8.9%	33,766	5.7%	54,057	9.1%	32,187	5.4%	25,285	4.3%	
宮城	選挙区	943,123	421,634	44.7%	215,105	22.8%			220,207	23.3%	76,515	8.1%					
	比例区	935,616	313,028	33.5%	134,289	14.4%	118,491	12.7%	111,424	11.9%	79,787	8.5%	107,038	11.4%	25,986	2.8%	
秋田	選挙区	498,450	260,846	52.3%	194,497	39.0%					36,371	7.3%					
	比例区	487,229	198,315	40.7%	81,244	16.7%	54,730	11.2%	22,573	4.6%	31,894	6.5%	61,977	12.7%	17,806	3.7%	
山形	選挙区	565,730	272,779	48.2%							33,718	6.0%					
	比例区	558,873	226,841	40.6%	119,708	21.4%	57,413	10.3%	28,193	5.0%	33,887	6.1%	37,698	6.7%	19,556	3.5%	
福島	選挙区	855,418	484,089	56.6%	240,842	28.2%					77,401	9.0%					
	比例区	839,740	305,097	36.3%	169,606	20.2%	107,715	12.8%	58,762	7.0%	74,895	8.9%	59,297	7.1%	28,466	3.4%	
茨城	選挙区	1,157,672	560,642	48.4%	204,021	17.6%			153,403	13.3%	97,197	8.4%	127,823	11.0%			
	比例区	1,161,258	445,077	38.3%	145,157	12.5%	179,255	15.4%	125,602	10.8%	82,607	7.1%	119,070	10.3%	20,032	1.7%	
栃木	選挙区	782,747	376,553	48.1%	158,577	20.3%			201,895	25.8%	41,351	5.3%					
	比例区	785,907	257,987	32.8%	123,004	15.7%	97,560	12.4%	182,519	23.2%	37,573	4.8%	50,994	6.5%	8,070	1.0%	
群馬	選挙区	806,974	580,144	71.9%	123,725	15.3%					91,905	11.4%					
	比例区	812,194	356,608	43.9%	96,203	11.8%	103,113	12.7%	66,528	8.2%	65,722	8.1%	84,150	10.4%	13,798	1.7%	
埼玉	選挙区	2,938,710	1,000,725	34.1%	389,625	13.3%	599,755	20.4%	485,559	16.5%	353,594	12.0%					
	比例区	2,947,870	964,514	32.7%	350,369	11.9%	457,084	15.5%	367,349	12.5%	334,341	11.3%	281,844	9.6%	62,625	2.1%	
千葉	選挙区	2,388,398	1,099,512	46.0%	388,529	16.3%			285,007	11.9%	232,477	9.7%	186,259	7.8%			
	比例区	2,442,409	834,215	34.2%	317,992	13.0%	363,669	14.9%	276,439	11.3%	232,499	9.5%	249,840	10.2%	41,500	1.7%	
東京	選挙区	5,637,805	1,677,048	29.7%	552,714	9.8%	797,811	14.2%	320,287	5.7%	703,901	12.5%	413,637	7.3%			
	比例区	5,632,773	1,797,989	31.9%	585,724	10.4%	688,534	12.2%	710,906	12.6%	772,500	13.7%	635,573	11.3%	116,139	2.1%	
神奈川	選挙区	3,927,137	1,130,652	28.8%	461,006	11.7%	629,662	16.0%	740,207	18.8%	444,955	11.3%	242,462	6.2%	76,792	2.0%	
	比例区	3,931,200	1,346,664	34.3%	481,168	12.2%	444,670	11.3%	570,169	14.5%	400,561	10.2%	410,405	10.4%	89,178	2.3%	
新潟	選挙区	1,061,493	456,542	43.0%	204,834	19.3%					60,317	5.7%	107,591	10.1%	46,101	4.3%	
	比例区	1,042,411	409,001	39.2%	174,264	16.7%	94,639	9.1%	66,785	6.4%	77,964	7.5%	106,823	10.2%	42,850	4.1%	
富山	選挙区	426,513	328,638	77.1%							51,569	12.1%					
	比例区	434,453	203,612	46.9%	40,870	9.4%	40,400	9.3%	21,555	5.0%	20,719	4.8%	38,986	9.0%	38,932	9.0%	
石川	選挙区	495,447	321,286	64.8%	113,817	23.0%					40,295	8.1%					
	比例区	498,086	245,792	49.3%	79,407	15.9%	46,480	9.3%	29,352	5.9%	29,868	6.0%	40,996	8.2%	9,329	1.9%	
福井	選挙区	336,761	237,732	70.6%	56,409	16.8%					35,800	10.6%					
	比例区	338,957	161,955	47.8%	54,309	16.0%	36,621	10.8%	18,887	5.6%	19,812	5.8%	30,252	8.9%	5,064	1.5%	
山梨	選挙区	382,070	142,529	37.3%					58,750	15.4%	36,082	9.4%					
	比例区	380,026	133,301	35.1%	58,355	15.4%	51,153	13.5%	50,464	13.3%	33,284	8.8%	34,031	9.0%	5,420	1.4%	
長野	選挙区	980,406	365,115	37.2%	294,588	30.0%			106,915	10.9%	154,630	15.8%					
	比例区	978,342	299,664	30.6%	177,917	18.2%	113,329	11.6%	100,168	10.2%	135,668	13.9%	78,613	8.0%	35,363	3.6%	
岐阜	選挙区	852,050	500,580	58.8%	218,074	25.6%					115,503	13.6%					
	比例区	863,817	346,869	40.2%	119,580	13.8%	115,754	13.4%	60,362	7.0%	73,864	8.6%	95,316	11.0%	13,142	1.5%	
静岡	選挙区	1,528,151	634,789	41.5%	458,095	30.0%			187,055	12.2%	115,411	7.6%	119,109	7.8%			
	比例区	1,527,328	512,774	33.6%	292,520	19.2%	208,302	13.6%	158,814	10.4%	110,763	7.3%	176,007	11.5%	20,947	1.4%	
愛知	選挙区	2,983,953	1,056,145	35.4%	741,598	24.9%			347,411	11.6%	271,278	9.1%	263,918	8.8%	47,104	1.6%	
	比例区	3,022,754	996,400	33.0%	548,599	18.1%	409,796	13.6%	297,287	9.8%	284,009	8.7%	320,057	10.6%	48,409	1.6%	
三重	選挙区	843,397	373,035	44.2%	131,261	15.6%					59,231	7.0%	70,779	8.4%			
	比例区	840,020	282,098	33.6%	194,999	23.2%	114,819	13.7%	49,154	5.9%	58,128	6.9%	100,480	12.0%	13,445	1.6%	
滋賀	選挙区	572,589	305,872	53.4%	167,399	29.2%					86,587	15.1%					
	比例区	578,903	208,451	36.0%	98,946	17.1%	59,127	10.2%	38,950	6.7%	60,560	10.5%	84,776	14.6%	9,579	1.7%	
京都	選挙区	1,056,980	390,577	37.0%	201,297	19.0%			71,983	6.8%	219,273	20.7%	164,825	15.6%			
	比例区	1,059,567	324,921	30.7%	129,957	12.3%	132,466	12.5%	77,416	7.3%	182,395	17.2%	166,379	15.7%	14,477	1.4%	
大阪	選挙区	3,665,733	817,943	22.3%	337,378	9.2%	697,219	19.0%	157,969	4.3%	468,904	12.8%	1,056,815	28.8%			
	比例区	3,664,917	896,679	24.5%	270,518	7.4%	667,150	18.2%	201,360	5.5%	436,878	11.9%	1,053,036	28.7%	40,468	1.1%	
兵庫	選挙区	2,297,818	868,069	37.8%	343,551	15.0%			174,132	7.6%	220,577	9.6%	588,630	26.1%			
	比例区	2,336,216	720,802	30.9%	287,828	12.3%	365,337	15.6%	175,437	7.5%	223,962	9.6%	456,393	19.5%	37,346	1.6%	
奈良	選挙区	604,949	354,658	58.6%	139,680	23.1%					91,704	15.2%					
	比例区	619,834	220,416	35.6%	70,458	11.4%	86,113	13.9%	37,108	6.0%	61,541	9.9%	115,413	18.6%	10,074	1.6%	
和歌山	選挙区	436,836	337,477	77.3%							83,172	19.0%					
	比例区	441,057	184,860	41.9%	33,713	7.6%	80,504	18.3%	21,027	4.8%	45,641	10.3%	61,089	13.8%	4,145	0.9%	
鳥取	選挙区	276,040	160,783	58.2%	82,717	30.0%					19,600	7.1%					
	比例区	275,302	115,477	41.9%	46,653	16.9%	51,327	18.6%	10,881	4.0%	19,706	7.2%	18,186	6.6%	4,949	1.8%	
島根	選挙区	349,533	202,181	57.8%							26,255	7.5%					
	比例区	346,907	157,895	45.5%	47,968	13.8%	49,949	14.4%	13,086	3.8%	23,931	6.9%	26,361	7.6%	8,671	2.5%	
岡山	選挙区	749,563	490,727	65.5%							65,455	8.7%					
	比例区	747,755	284,616	38.1%	100,310	13.4%	144,706	19.4%	42,353	5.7%	62,376	8.3%	80,516	10.8%	10,008	1.3%	
広島	選挙区	1,127,511	521,794	46.3%	194,358	17.2%			0.0%		86,145	7.6%	173,266	15.4%			
	比例区	1,132,287	438,853	38.8%	145,458	12.8%	184,963	16.3%	66,174	5.8%	82,740	7.3%	136,334	12.0%	21,729	1.9%	
山口	選挙区	574,012	455,546	79.4%													

資料 2-2

		生活の党		みどりの風		新党大地		諸派		無所属	
		得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率
北海道	選挙区					352,434	14.7%	23,194	1.0%		
	比例区	23,996	1.0%	9,178	0.4%	284,878	11.7%	23,704	1.0%		
青森	選挙区							6,659	1.3%	53,062	10.4%
	比例区	23,167	4.6%	2,080	0.4%	3,208	0.6%	4,933	1.0%		
岩手	選挙区							8,322	1.4%	243,368	39.7%
	比例区	91,048	14.9%	2,701	0.5%	3,315	0.6%	7,231	1.2%		
宮城	選挙区							9,662	1.0%		
	比例区	23,042	2.5%	5,376	0.6%	6,890	0.7%	10,259	1.1%		
秋田	選挙区							6,736	1.4%		
	比例区	10,274	2.1%	2,255	0.5%	2,189	0.4%	3,967	0.8%		
山形	選挙区			252,040	44.6%			7,193	1.3%		
	比例区	6,826	1.2%	19,849	3.6%	2,035	0.4%	6,864	1.2%		
福島	選挙区							17,285	2.0%		
	比例区	13,842	1.6%	9,998	1.2%	3,707	0.4%	8,349	1.0%		
茨城	選挙区							14,586	1.3%		
	比例区	19,672	1.7%	6,969	0.6%	4,521	0.4%	13,292	1.1%		
栃木	選挙区							4,371	0.6%		
	比例区	14,854	1.9%	3,991	0.5%	2,444	0.3%	6,907	0.9%		
群馬	選挙区							11,200	1.4%		
	比例区	12,582	1.5%	3,479	0.4%	2,475	0.3%	7,531	0.9%		
埼玉	選挙区							43,703	1.5%		
	比例区	61,135	2.1%	22,492	0.8%	15,126	0.5%	30,986	1.1%		
千葉	選挙区							48,374	2.0%		
	比例区	148,240	6.2%	16,917	0.7%	15,372	0.6%	23,954	1.0%		
東京	選挙区			70,571	1.3%			115,463	2.0%	986,373	17.5%
	比例区	120,835	2.1%	59,302	1.1%	40,644	0.7%	104,622	1.9%		
神奈川	選挙区			119,633	3.0%			51,365	1.3%	30,403	0.8%
	比例区	63,016	1.6%	51,584	1.3%	17,278	0.4%	56,402	1.4%		
新潟	選挙区							5,188	0.5%	15,612	1.5%
	比例区	165,308	15.6%	6,685	0.6%	7,386	0.7%	10,827	1.0%		
富山	選挙区							18,797	4.4%	27,509	6.4%
	比例区	21,151	4.9%	1,444	0.3%	1,460	0.3%	5,319	1.2%		
石川	選挙区							9,935	2.0%	10,114	2.0%
	比例区	5,825	1.2%	2,408	0.5%	2,126	0.4%	6,498	1.3%		
福井	選挙区							7,020	2.1%		
	比例区	3,788	1.1%	1,704	0.5%	2,352	0.7%	4,209	1.2%		
山梨	選挙区							3,220	0.8%	141,489	37.0%
	比例区	5,958	1.6%	1,890	0.5%	1,254	0.3%	4,911	1.3%		
長野	選挙区							7,537	0.8%	51,621	5.3%
	比例区	13,480	1.4%	6,600	0.7%	4,193	0.4%	13,344	1.4%		
岐阜	選挙区							17,893	2.1%		
	比例区	11,280	1.3%	7,406	0.9%	7,272	0.8%	12,969	1.5%		
静岡	選挙区							13,692	0.9%		
	比例区	18,058	1.2%	8,073	0.5%	5,151	0.3%	15,916	1.0%		
愛知	選挙区			62,985	2.1%			193,514	6.5%		
	比例区	42,746	1.4%	49,095	1.6%	12,982	0.4%	33,368	1.1%		
三重	選挙区							8,233	1.0%	14,858	1.8%
	比例区	8,582	1.0%	5,659	0.7%	3,410	0.4%	9,240	1.1%		
滋賀	選挙区							12,731	2.2%		
	比例区	4,884	0.8%	4,373	0.8%	1,718	0.3%	7,534	1.3%		
京都	選挙区							9,025	0.9%		
	比例区	8,826	0.8%	5,686	0.5%	2,856	0.3%	14,383	1.4%		
大阪	選挙区					56,573	1.5%	34,333	0.9%	38,599	1.1%
	比例区	28,803	0.8%	17,427	0.5%	19,040	0.5%	33,371	0.9%		
兵庫	選挙区							92,859	4.0%		
	比例区	20,256	0.9%	9,865	0.4%	6,710	0.3%	32,276	1.4%		
奈良	選挙区							18,907	3.1%		
	比例区	5,960	1.0%	3,552	0.6%	2,413	0.4%	6,781	1.1%		
和歌山	選挙区							16,187	3.7%		
	比例区	3,323	0.8%	1,541	0.3%	1,141	0.3%	4,271	1.0%		
鳥取	選挙区							6,782	2.5%	6,158	2.2%
	比例区	2,805	1.0%	1,321	0.5%	890	0.3%	3,103	1.1%		
島根	選挙区			115,043	32.9%			6,054	1.7%		
	比例区	2,530	0.7%	11,108	3.2%	973	0.3%	4,431	1.3%		
岡山	選挙区							12,517	1.7%	180,864	24.1%
	比例区	7,432	1.0%	3,094	0.4%	4,361	0.6%	7,978	1.1%		
広島	選挙区							14,621	1.3%		
	比例区	137,327	12.2%	7,523	0.7%	3,975	0.4%	12,179	1.1%		
山口	選挙区							22,986	4.0%		
	比例区	4,898	0.8%	2,354	0.4%	1,485	0.3%	5,907	1.0%		
徳島	選挙区							12,037	3.9%		
	比例区	3,113	1.0%	1,292	0.4%	1,257	0.4%	4,755	1.5%		
香川	選挙区							5,932	1.4%	142,407	34.2%
	比例区	4,788	1.1%	1,544	0.4%	3,427	0.8%	4,385	1.1%		
愛媛	選挙区							14,147	2.5%	8,612	1.5%
	比例区	6,807	1.2%	2,517	0.4%	2,316	0.4%	6,489	1.1%		
高知	選挙区							4,268	1.4%		
	比例区	2,872	1.0%	1,414	0.5%	897	0.3%	3,454	1.2%		
福岡	選挙区							34,090	1.8%		
	比例区	19,735	1.0%	9,664	0.5%	6,138	0.3%	25,224	1.3%		
佐賀	選挙区							8,067	2.3%		
	比例区	3,284	0.9%	1,695	0.5%	1,255	0.4%	4,536	1.3%		
長崎	選挙区							15,586	2.6%		
	比例区	5,151	0.9%	23,952	4.0%	1,543	0.3%	6,011	1.0%		
熊本	選挙区							12,944	1.7%		
	比例区	7,462	1.0%	3,399	0.5%	2,967	0.4%	8,244	1.1%		
大分	選挙区							14,265	2.8%	137,049	27.3%
	比例区	5,632	1.1%	1,846	0.4%	1,693	0.3%	5,993	1.2%		
宮崎	選挙区							15,144	3.3%		
	比例区	3,395	0.8%	2,286	0.5%	929	0.2%	3,958	0.9%		
鹿児島	選挙区							9,629	1.4%		
	比例区	6,622	1.0%	3,850	0.6%	1,854	0.2%	7,209	1.1%		
沖縄	選挙区							303,882	52.8%	10,505	1.8%
	比例区	11,471	2.1%	2,413	0.4%	1,816	0.3%	11,405	2.1%		
全国計	選挙区	618,355	1.2%	620,272	1.2%	409,007	0.8%	1,350,135	2.5%	2,098,603	4.0%
	比例区	943,836	1.8%	430,742	0.8%	523,146	1.0%	649,505	1.2%		

過去の参院選の結果との比較 全国

政党名	1998年(投票率58.83%)				2001年(投票率56.44%)				2004年(投票率56.56%)				2007年(投票率58.64%)							
	選挙区	比例区	合計	得票	得票率	選挙区	比例区	合計	得票	得票率	選挙区	比例区	合計	得票	得票率	選挙区	比例区	合計	得票	得票率
自民党	30	14	44	17,033,852	30.5%	44	20	64	22,299,828	41.0%	34	15	49	19,687,854	35.1%	23	14	37	18,606,193	31.4%
民主党	15	27	42	9,063,939	16.2%	18	26	44	10,066,563	18.5%	18	31	49	21,931,984	39.1%	40	60	100	24,006,817	40.5%
自由党 みん(10年)	1	12	13	12,209,685	21.7%	8	8	16	8,990,524	16.4%	31	19	50	21,137,458	37.8%	20	20	40	23,256,242	39.5%
公明党	2	5	7	5,207,813	9.3%	4	4	8	4,227,148	7.7%	3	3	6	2,161,464	3.9%	2	9	11	3,534,672	6.0%
共産党	7	7	14	7,748,301	13.8%	8	8	16	8,187,804	15.0%	0	8	8	8,621,265	15.4%	0	7	7	7,762,324	13.2%
維新の会	8	11.9%	19.9%	8,195,078	14.6%	4	4	8	4,329,210	7.9%	4	4	8	4,362,573	7.8%	3	3	6	4,407,937	7.5%
社民党	1	5	6	2,403,649	4.3%	0	3	3	1,874,299	3.4%	0	2	2	984,338	1.8%	0	2	2	1,352,018	2.3%
無所属他	20	0	20	15,852,136	28.3%	3	1	4	8,254,377	15.2%	5	0	5	5,822,667	10.4%	8	10	18	6,863,355	11.6%
合計	76	126	202	55,936,064	100.0%	73	121	194	54,338,462	100.0%	73	121	194	56,108,848	100.0%	73	121	194	59,347,527	100.0%

神奈川県内・過去の参院選の結果との比較

政党名	1998年(投票率55.69%)				2001年(投票率55.45%)				2004年(投票率54.48%)				2007年(投票率56.32%)							
	選挙区	比例区	合計	得票	得票率	選挙区	比例区	合計	得票	得票率	選挙区	比例区	合計	得票	得票率	選挙区	比例区	合計	得票	得票率
自民党	0	0	0	749,797	21.0%	1	1	2	1,294,860	35.4%	1	1	2	1,217,100	33.2%	1	1	2	896,752	22.5%
民主党	2	2	4	1,151,554	32.3%	1	1	2	595,812	16.3%	2	2	4	1,700,263	46.4%	2	2	4	1,792,399	45.1%
自由党 みん(10年)	0	0	0	241,189	6.8%	0	0	0	307,005	8.4%	0	0	0	1,484,606	39.5%	0	0	0	1,624,809	41.1%
公明党	0	0	0	381,219	10.6%	1	1	2	305,280	8.2%	0	0	0	0	0	0	0	0	691,842	17.4%
共産党	1	1	2	476,740	13.3%	0	0	0	483,470	13.0%	0	0	0	539,005	14.3%	0	0	0	475,011	12.0%
維新の会	0	0	0	565,282	15.7%	0	0	0	284,169	7.6%	0	0	0	298,757	7.9%	0	0	0	321,459	8.1%
社民党	0	0	0	298,244	8.4%	0	0	0	308,554	8.4%	0	0	0	254,943	7.0%	0	0	0	128,757	3.2%
無所属他	0	0	0	620,570	17.4%	0	0	0	196,297	5.4%	0	0	0	93,445	2.6%	0	0	0	82,864	2.1%
合計	3	3	6	3,565,776	100.0%	3	3	6	3,662,668	100.0%	3	3	6	3,663,411	100.0%	3	3	6	3,977,233	100.0%

前回の参院選の結果との比較 全国

政党名	2010年(投票率57.92%)				2013年(投票率52.61%)				前回の比較 増△減
	選挙区 比例区	得票 得票率	得票 得票率	合計	選挙区 比例区	得票 得票率	得票 得票率	合計	
自民党	39 12	19,496,083 24.1%	19,496,083 33.4%	51 42.1%	47 18	22,581,192 34.7%	22,581,192 42.5%	65 53.7%	3,085,109 4,388,733
民主党	28 16	22,756,000 31.6%	22,756,000 39.0%	44 36.4%	10 7	8,646,371 13.4%	8,646,371 16.3%	17 14.0%	△14,109,629 △11,315,925
みんなの党	3 7	5,977,391 8.3%	5,977,391 10.2%	10 8.3%	4 4	4,159,961 6.6%	4,159,961 8.9%	8 6.6%	△1,817,430 △3,188,490
公明党	3 6	2,265,818 3.1%	2,265,818 3.9%	9 7.4%	4 7	2,724,447 4.2%	2,724,447 5.1%	11 9.1%	458,629 △71,352
共産党	0 3	4,256,400 6.1%	4,256,400 7.3%	3 2.5%	3 3	5,645,937 8.6%	5,645,937 10.6%	8 6.6%	1,389,537 1,590,498
維新の会	0 2	602,684 0.8%	602,684 1.0%	2 1.7%	2 2	3,846,649 5.7%	3,846,649 7.2%	8 6.6%	3,846,649 6,355,299
社民党	0 2	2,242,736 3.8%	2,242,736 3.8%	2 1.7%	2 2	1,255,235 2.4%	1,255,235 2.4%	2 1.7%	△331,137 △987,501
無所属他	0 2	3,046,431 4.3%	3,046,431 4.5%	10 8.3%	0 2	5,096,372 7.8%	5,096,372 9.6%	10 8.3%	2,049,941 △1,995,087
合計	73 48	58,400,807 100.0%	58,400,807 100.0%	121 100.0%	70 51	53,072,476 100.0%	53,072,476 100.0%	121 100.0%	△5,328,331 △5,223,825

前回の参院選の結果との比較 神奈川

政党名	2010年(投票率55.56%)				2013年(投票率54.47%)				前回の比較 増△減
	選挙区 比例区	得票 得票率	得票 得票率	合計	選挙区 比例区	得票 得票率	得票 得票率	合計	
自民党	1 1	982,220 25.2%	982,220 25.2%	1 1	1 1	1,130,652 28.8%	1,130,652 28.8%	1 1	148,432 530,934
民主党	1 1	1,441,882 37.0%	1,441,882 37.0%	1 1	1 1	461,006 11.7%	461,006 11.7%	1 1	△980,876 △730,021
みんなの党	1 0	788,729 20.2%	788,729 20.2%	1 0	1 0	740,207 18.8%	740,207 18.8%	1 0	△48,522 △315,951
公明党	0 0	886,120 22.3%	886,120 22.3%	0 0	1 1	570,169 14.5%	570,169 14.5%	1 1	629,662 629,662
共産党	0 0	495,257 12.5%	495,257 12.5%	0 0	0 0	444,670 11.3%	444,670 11.3%	0 0	△50,587 140,896
維新の会	0 0	304,059 7.8%	304,059 7.8%	0 0	0 0	444,955 11.3%	444,955 11.3%	0 0	140,896 158,368
社民党	0 0	113,712 2.9%	113,712 2.9%	0 0	0 0	242,462 6.2%	242,462 6.2%	0 0	242,462 410,505
無所属他	0 3	268,125 6.9%	268,125 6.9%	0 3	0 4	188,280 4.8%	188,280 4.8%	0 4	△36,920 △102,275
合計	3 1	3,898,727 100.0%	3,898,727 100.0%	3 1	4 1	3,927,137 100.0%	3,927,137 100.0%	4 1	28,410 △38,702

資料4 参議院選挙における党派別当選者数と勢力の変遷 (1986～2013年)

	第14回 1986. 7. 6				第15回 1989. 7. 23				第16回 1992. 7. 26				第17回 1995. 7. 23				第18回 1998. 7. 12												
	選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数							
		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計	選挙区	比例	計		
自民	134	50	22	72	143	21	15	36	73	109	114	50	19	69	39	108	94	31	15	46	65	111	119	30	14	44	59	103	
新進・民主																													
社会・社民	41	11	9	20	41	26	20	46	22	68	71	12	10	22	49	71	63	7	9	16	21	37	20	1	4	5	8	13	
公明	26	3	7	10	24	25	4	10	11	21	20	6	8	14	10	24	12				11	11	24	2	7	9	13	22	
共産	14	4	5	9	16	16	1	4	5	14	14	2	4	6	5	11	11	3	5	8	6	14	14	7	8	15	8	23	
民社	14	2	3	5	12	12	1	2	3	8	8	1	3	4	5	9													
二院ク	3		1	1	2	3	1	1	2	1	3	2	0	1	2	3	2				1	1	2	2		0	1	1	
さきがけ																													
連合・改革ク																													
自由						1	11			11	13	0		0	12	12	8	2	0	2	0	2							
その他	5		3	4	7	7	1	2	3	6	3	2	5	7	2	9	6	1	0	1	2	3							
無所属	4	6		6	6	2	10		10	11	5	4		4	1	5	18	9		9	3	12	16	20		20	5	25	
合計	241	76	50	126	252	76	50	126	126	252	250	77	50	127	125	252	250	76	50	126	126	252	250	76	50	126	126	252	

中曽根内閣W選挙

宇野内閣 → 海部内閣

宮沢内閣

村山内閣

橋本内閣→小渊内閣

「新進・民主」は、95年が新進、98年は民主。「社会・社民」は、95年までは社会、98年以降は社民。「連合・改革」は、92年までは連合、95年は民主改革連合、98年は改革クラブ。

1983年から拘束名簿式比例代表

	第19回 2001. 7. 29				第20回 2004. 7. 11				第21回 2007. 7. 29				第20回 2010. 7. 11				第20回 2013. 7. 21													
	選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数			選挙前議席	当選者数								
		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計		選挙区	比例	計	選挙区	比例	計			
自民	108	44	20	64	111	116	34	15	49	66	115	110	23	14	37	46	83	71	39	12	51	33	84	83	47	18	65	49	114	
民主	56	18	8	26	59	70	31	19	50	32	82	81	40	20	60	49	109	116	28	16	44	62	106	86	10	7	17	42	59	
公明	23	5	8	13	23	23	3	8	11	13	24	23	2	7	9	11	20	21	3	6	9	10	19	19	4	7	11	9	20	
みんな																			1	3	7	10	1	11	13	4	4	8	10	18
共産	23	1	4	5	20	20	0	4	4	5	9	9	0	3	3	4	7	7	0	3	3	3	6	6	3	5	8	3	11	
社民	12	0	3	3	8	5	0	2	2	3	5	6	0	2	2	3	5	5	0	2	2	2	4	4	0	1	1	2	3	
自由・国民・生活	5	2	4	6	2	8						4	1	1	2	2	4	6	0	0	0	3	3	8	0	0	0	2	2	
無の会・維新	4		0	0	4																			3	2	6	8	1	9	
保守・改革・みどり	7		1	1	4													6	0	1	1	1	2	4	0	0	0	0	0	
その他	2			0	1	1			0		0	1		1	1	1	2	4	0	1	1	3	4	2	1	0	1	1	2	
無所属	10	3		3	5	6	5		5	2	7	6	7		7	5	12	4	0		0	3	3	9	2	2	2	4		
合計	250	73	48	121	247	241	73	48	121	121	242	240	73	48	121	121	242	241	73	48	121	121	242	237	73	48	121	121	242	

小泉内閣

小泉内閣

安倍内閣

菅内閣

第2次安倍内閣

「自由・国民・生活」は、01年が自由、07、10年が国民新党、13年が生活の党。「無の会・維新」は、01年が「無所属」の会、13年が維新の会。「保守・改革・みどり」は、91年が保守、10年が新党改革、13年がみどりの党。

2001年から非拘束名簿式比例代表

欠5

資料5 比例代表 全国得票上位100人

順位	当落	氏名	党名	全国得票	県内得票
1	当	山本香苗	公現③	996,959	5,736
2	当	平木大作	公新①	770,682	30,778
3	当	河野義博	公新①	703,637	2,795
4	当	山本博司	公現②	592,814	3,490
5	当	若松謙維	公新①	577,951	7,660
6	当	魚住裕一郎	公現②	540,817	2,582
7	当	柘植芳文	自新①	429,002	12,546
8	当	アントニオ猪木	維元②	356,605	23,240
9	当	山田俊男	自現②	338,485	10,369
10	当	佐藤正久	自現②	326,541	24,717
11	当	中山恭子	維現②	305,341	18,613
12	当	石井みどり	自現②	294,148	20,793
13	当	橋本聖子	自現④	279,952	18,019
14	当	磯崎哲史	民新①	271,553	32,890
15	当	羽生田 俊	自新①	249,818	8,184
16	当	浜野喜史	民新①	235,917	5,784
17	当	相原久美子	民現②	235,636	10,282
18	当	佐藤信秋	自現②	215,506	4,734
19	当	赤池誠章	自新①	208,319	16,939
20	当	山東昭子	自現⑦	205,779	19,164
21	当	衛藤晟一	自現②	204,404	8,265
22	当	石田昌宏	自新①	201,109	5,064
23	当	有村治子	自現②	191,343	8,299
24	当	大島九州男	民現②	191,167	10,983
25	当	宮本周司	自新①	178,480	2,232
26		三宅洋平	緑新	176,970	18,239
27	当	神本美恵子	民現②	176,248	11,195
28	当	吉川沙織	民現②	167,437	7,975
29	当	又市征治	社現③	156,155	2,677
30	当	丸山和也	自現②	153,303	16,591
31	当	石上俊雄	民新①	152,121	21,606
32	当	北村経夫	自新①	142,613	7,787
33		川合孝典	民現①	138,830	7,049
34	当	小池 晃	共前③	134,325	16,116
35	当	山下芳生	共現③	129,149	4,426
36		石井 一	民現①	123,355	4,890
37		定光克之	民新	120,782	3,806
38	当	川田龍平	み現②	117,389	12,688
39		山城博治	社新	112,641	2,614
40	当	渡辺美樹	自新①	104,176	13,593
41		轟木利治	民現①	103,996	5,055
42	当	木村義雄	自新①	99,979	4,740
43		ツルネン・マルティ	民現②	82,858	24,119
44		鹿野道彦	民新	82,404	1,187
45	当	太田房江	自新	77,173	4,143
46		若狭 勝	自新	76,829	8,190
47	当	山口和之	み新	75,000	2,143
48	当	紙 智子	共現③	68,729	1,045
49		園田修光	自新	65,840	1,203
50		鈴木宗男	大新	62,902	2,356
51		大江康弘	自元②	59,376	2,112
52		山岡賢次	生元②	56,372	3,391
53		佐々木洋平	自新	56,082	3,631
54		築瀬 進	民元②	53,940	1,461
55		谷岡郁子	ミ現①	51,367	4,332
56	当	井上哲士	共現③	50,874	1,183
57	当	渡辺美知太郎	み新①	50,253	2,360
58		円 より子	民元③	49,008	4,601
59	当	井上義行	み新①	47,756	27,643
60		木村隆次	自新	47,627	1,782

順位	当落	氏名	党名	全国得票	県内得票
61		山田正彦	ミ新	44,231	1,488
62	当	儀間光男	維新①	40,484	461
63	当	仁比聡平	共元②	39,768	294
64		河合純一	み新	39,425	1,346
65		三宅雪子	生新	38,766	3,120
66		松木謙公	大新	38,721	780
67		山本幸治	み新	37,717	1,676
68		伊藤洋介	自新	37,423	3,507
69		山本陽子	共新	36,580	1,827
70		広野允士	生現②	35,554	1,209
71		石井龍馬	み新	35,364	2,170
72		金子善次郎	自新	34,866	1,639
73		藤原良信	生現①	34,568	415
74	当	藤巻健史	維新①	33,237	2,787
75		東 祥三	生新	33,146	2,223
76	当	中野正憲	維新①	32,926	366
77		本田顕子	み新	32,330	2,069
78	当	室井邦彦	維元②	32,107	752
79		五十嵐文彦	民新	29,077	1,323
80		塚原光男	自新	28,902	2,804
81		土田博和	維元①	28,616	761
82		畦元将吾	自新	28,519	1,348
83		奥村慎太郎	維新	27,954	389
84		吉田公一	民新	27,890	1,093
85		桜井よう子	維新	27,757	1,216
86		佐竹雅昭	自新	27,582	2,847
87		奥村展三	民元①	27,326	276
88		矢野敦子	社新	26,278	2,443
89	当	新妻秀規	公新①	26,044	337
90		石井義哲	維新	25,986	1,632
91		佐々木隆博	民新	24,326	306
92		梅沢重雄	み新	23,035	1,444
93		浅田真澄美	維新	22,406	512
94		鴨 桃代	社新	21,934	1,689
95		上原公成	維元②	21,457	557
96		はたともし	生現①	21,441	1,447
97		菅原直敏	み新	21,135	17,482
98		石原結実	維新	19,097	1,480
99		松村讓裕	維新	18,888	390
100		山崎 泰	維新	18,130	1,060

党名 自 自民党
 民 民主党
 公 公明党
 み みんなの党
 共 共産党
 維 維新の会
 社 社民党
 生 生活の党
 ミ みどりの風
 緑 緑の党
 大 新党大地

○囲み文字 今回分を含めた当選回数

資料 6-1 参議院神奈川県選出議員選挙 党派別（候補者別）得票 その1 2013.7.21 執行

開票区名	当日有権者数(人)	投票者数(人)	投票率(%)	有効投票	自民党 島村 大		民主党 牧山弘恵		公明党 佐々木さやか	
					得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率
県計	7,365,069	4,011,927	54.47	3,927,137	1,130,652	28.8%	461,006	11.7%	629,662	16.0%
横浜市計	2,996,966	1,664,483	55.54	1,627,581	471,607	29.0%	195,158	12.0%	248,081	15.2%
鶴見区	225,187	117,926	52.37	115,100	33,251	28.9%	11,237	9.8%	20,104	17.5%
神奈川区	190,350	98,359	51.67	96,129	28,297	29.4%	10,405	10.8%	14,696	15.3%
西区	80,305	43,561	54.24	42,320	13,783	32.6%	4,527	10.7%	6,192	14.6%
中区	114,455	59,297	51.81	57,908	18,140	31.3%	6,420	11.1%	8,928	15.4%
南区	163,684	86,846	53.06	84,771	26,169	30.9%	9,510	11.2%	15,247	18.0%
港南区	180,518	103,970	57.60	101,780	31,787	31.2%	12,907	12.7%	15,487	15.2%
保土ヶ谷区	166,628	93,434	56.07	91,397	23,050	25.2%	10,626	11.6%	19,769	21.6%
旭区	206,569	116,501	56.40	113,746	27,542	24.2%	14,738	13.0%	24,101	21.2%
磯子区	134,779	74,406	55.21	72,846	21,885	30.0%	9,453	13.0%	11,872	16.3%
金沢区	168,647	99,703	59.12	97,518	30,653	31.4%	12,741	13.1%	13,683	14.0%
港北区	271,972	150,190	55.22	146,860	45,045	30.7%	17,121	11.7%	17,831	12.1%
緑区	142,083	78,786	55.45	77,170	20,023	25.9%	8,700	11.3%	11,803	15.3%
青葉区	242,126	140,030	57.83	136,993	38,939	28.4%	15,628	11.4%	12,849	9.4%
都筑区	157,130	86,653	55.15	84,981	27,138	31.9%	9,819	11.6%	10,302	12.1%
戸塚区	221,471	125,106	56.49	122,311	34,902	28.5%	16,668	13.6%	16,622	13.6%
栄区	103,079	61,310	59.48	60,056	16,634	27.7%	8,321	13.9%	7,482	12.5%
泉区	126,016	72,589	57.60	71,136	19,526	27.4%	9,075	12.8%	10,671	15.0%
瀬谷区	101,967	55,816	54.74	54,559	14,843	27.2%	7,262	13.3%	10,442	19.1%
川崎市計	1,154,260	635,078	55.02	622,351	173,546	27.9%	68,002	10.9%	96,976	15.6%
川崎市	176,248	88,857	50.42	86,911	24,461	28.1%	7,959	9.2%	18,645	21.5%
幸区	128,096	71,987	56.20	70,473	19,698	28.0%	7,475	10.6%	13,184	18.7%
中原区	191,119	108,764	56.91	106,440	31,714	29.8%	11,248	10.6%	14,677	13.8%
高津区	176,719	94,051	53.22	92,270	25,251	27.4%	8,777	9.5%	15,264	16.5%
宮前区	176,745	96,914	54.83	95,143	27,647	29.1%	10,686	11.2%	14,448	15.2%
多摩区	167,624	92,574	55.23	90,768	23,067	25.4%	10,787	11.9%	12,699	14.0%
麻生区	137,709	81,931	59.50	80,346	21,708	27.0%	11,070	13.8%	8,059	10.0%
相模原市計	576,783	307,354	53.29	301,368	85,160	28.3%	38,673	12.8%	54,710	18.2%
緑区	141,581	75,114	53.05	73,638	21,202	28.8%	9,431	12.8%	13,820	18.8%
中央区	212,176	109,575	51.64	107,432	30,203	28.1%	13,222	12.3%	22,050	20.5%
南区	223,026	122,665	55.00	120,298	33,755	28.1%	16,020	13.3%	18,840	15.7%
横須賀市	348,137	182,519	52.43	178,889	65,601	36.7%	19,054	10.7%	33,539	18.7%
平塚市	210,898	108,431	51.41	105,851	30,020	28.4%	11,907	11.2%	21,180	20.0%
鎌倉市	148,799	87,256	58.64	85,448	22,146	25.9%	10,778	12.6%	9,114	10.7%
藤沢市	339,283	179,097	52.79	175,644	48,555	27.6%	22,389	12.7%	24,844	14.1%
小田原市	161,421	85,768	53.13	83,689	21,673	25.9%	9,120	10.9%	13,432	16.0%
茅ヶ崎市	193,714	105,326	54.37	103,140	27,717	26.9%	12,681	12.3%	16,702	16.2%
逗子市	50,154	29,487	58.79	28,924	8,124	28.1%	3,239	11.2%	3,288	11.4%
三浦市	40,514	18,318	45.21	17,810	5,832	32.7%	1,378	7.7%	4,104	23.0%
秦野市	134,355	70,134	52.20	68,741	19,452	28.3%	8,263	12.0%	10,804	15.7%
厚木市	179,886	89,770	49.90	87,998	26,343	29.9%	12,569	14.3%	15,824	18.0%
大和市	186,463	96,834	51.93	94,680	26,643	28.1%	9,917	10.5%	17,790	18.8%
伊勢原市	80,519	42,688	53.02	41,786	12,417	29.7%	6,162	14.7%	6,938	16.6%
海老名市	103,945	58,749	56.52	57,608	17,794	30.9%	6,586	11.4%	8,919	15.5%
座間市	105,631	54,544	51.64	53,395	15,013	28.1%	6,016	11.3%	9,483	17.8%
南足柄市	36,147	21,355	59.08	21,012	4,609	21.9%	1,584	7.5%	3,339	15.9%
綾瀬市	66,832	34,952	52.30	34,293	10,641	31.0%	3,597	10.5%	7,415	21.6%
一般市計	2,319,866	1,265,228	54.54	1,238,908	362,580	29.3%	145,240	11.7%	206,715	16.7%
葉山町	27,574	16,119	58.46	15,814	4,678	29.6%	1,687	10.7%	1,847	11.7%
寒川町	38,652	19,266	49.84	18,910	4,733	25.0%	2,520	13.3%	4,067	21.5%
大磯町	27,724	15,595	56.25	15,267	4,559	29.9%	1,754	11.5%	2,187	14.3%
二宮町	25,033	14,630	58.44	14,324	4,142	28.9%	1,613	11.3%	1,912	13.3%
中井町	8,028	4,550	56.68	4,436	1,314	29.6%	384	8.7%	703	15.8%
大井町	13,835	7,731	55.88	7,566	1,895	25.0%	492	6.5%	1,178	15.6%
松田町	9,955	6,012	60.39	5,900	1,627	27.6%	473	8.0%	718	12.2%
山北町	9,891	6,609	66.82	6,478	1,746	27.0%	543	8.4%	746	11.5%
開成町	13,094	8,457	64.59	8,368	1,150	13.7%	366	4.4%	760	9.1%
箱根町	10,999	5,811	52.83	5,630	1,827	32.5%	373	6.6%	1,119	19.9%
真鶴町	7,051	4,362	61.86	4,268	1,210	28.4%	404	9.5%	925	21.7%
湯河原町	22,733	12,436	54.70	12,139	3,846	31.7%	1,131	9.3%	2,175	17.9%
愛川町	33,095	16,563	50.05	16,232	4,451	27.4%	2,016	12.4%	4,482	27.6%
清川村	2,698	1,643	60.90	1,597	581	36.4%	177	11.1%	361	22.6%
町村計	250,362	139,784	55.83	136,929	37,759	27.6%	13,933	10.2%	23,180	16.9%
県計	7,365,069	4,011,927	54.47	3,927,137	1,130,652	28.8%	461,006	11.7%	629,662	16.0%

資料 6-2 参議院神奈川県選出議員選挙 党派別（候補者別）得票 その2 2013.7.21 執行

開票区名	みんなの党 松沢成文		共産党 畑野君枝		維新の会 水戸将史		みどりの風 露木順一		社民党 木村栄子		諸派 溝口敏盛	
	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率
県計	740,207	18.8%	444,955	11.3%	242,462	6.2%	119,633	3.0%	76,792	2.0%	41,359	1.1%
横浜市計	315,888	19.4%	185,808	11.4%	111,139	6.8%	34,337	2.1%	32,147	2.0%	15,826	1.0%
鶴見区	20,231	17.6%	15,180	13.2%	8,236	7.2%	1,886	1.6%	2,174	1.9%	1,461	1.3%
神奈川区	18,131	18.9%	12,171	12.7%	6,650	6.9%	2,030	2.1%	1,935	2.0%	777	0.8%
西区	7,752	18.3%	4,560	10.8%	2,838	6.7%	991	2.3%	784	1.9%	423	1.0%
中区	10,423	18.0%	6,283	10.8%	3,946	6.8%	1,355	2.3%	1,121	1.9%	753	1.3%
南区	12,995	15.3%	10,807	12.7%	5,044	6.0%	1,586	1.9%	1,510	1.8%	996	1.2%
港南区	16,831	16.5%	12,311	12.1%	6,508	6.4%	1,987	2.0%	1,959	1.9%	931	0.9%
保土ヶ谷区	16,306	17.8%	10,738	11.7%	5,923	6.5%	1,663	1.8%	1,643	1.8%	682	0.7%
旭区	20,272	17.8%	13,274	11.7%	7,333	6.4%	2,075	1.8%	2,554	2.2%	819	0.7%
磯子区	12,182	16.7%	8,265	11.3%	4,710	6.5%	1,580	2.2%	1,434	2.0%	700	1.0%
金沢区	17,272	17.7%	11,320	11.6%	6,040	6.2%	2,008	2.1%	1,943	2.0%	879	0.9%
港北区	30,228	20.6%	16,205	11.0%	10,312	7.0%	3,695	2.5%	3,053	2.1%	1,513	1.0%
緑区	19,094	24.7%	8,331	10.8%	4,563	5.9%	1,609	2.1%	1,645	2.1%	605	0.8%
青葉区	38,659	28.2%	13,135	9.6%	8,522	6.2%	3,811	2.8%	2,859	2.1%	1,260	0.9%
都筑区	17,993	21.2%	7,373	8.7%	7,102	8.4%	2,002	2.4%	1,582	1.9%	759	0.9%
戸塚区	23,189	19.0%	14,503	11.9%	8,692	7.1%	2,506	2.0%	2,329	1.9%	1,421	1.2%
栄区	13,678	22.8%	6,839	11.4%	3,408	5.7%	1,306	2.2%	1,228	2.0%	545	0.9%
泉区	11,885	16.7%	7,833	11.0%	8,007	11.3%	1,207	1.7%	1,297	1.8%	706	1.0%
瀬谷区	8,767	16.1%	6,680	12.2%	3,305	6.1%	1,040	1.9%	1,097	2.0%	596	1.1%
川崎市計	126,708	20.4%	80,613	13.0%	39,007	6.3%	12,607	2.0%	11,461	1.8%	7,136	1.1%
川崎区	12,615	14.5%	13,526	15.6%	5,349	6.2%	1,092	1.3%	1,323	1.5%	1,038	1.2%
幸区	11,983	17.0%	9,620	13.7%	4,601	6.5%	1,081	1.5%	1,248	1.8%	878	1.2%
中原区	21,141	19.9%	13,814	13.0%	7,210	6.8%	2,150	2.0%	2,003	1.9%	1,288	1.2%
高津区	19,934	21.6%	11,208	12.1%	6,076	6.6%	1,959	2.1%	1,581	1.7%	1,209	1.3%
宮前区	19,976	21.0%	10,613	11.2%	6,051	6.4%	2,125	2.2%	1,717	1.8%	997	1.0%
多摩区	20,935	23.1%	12,324	13.6%	5,327	5.9%	2,017	2.2%	1,795	2.0%	880	1.0%
麻生区	20,124	25.0%	9,508	11.8%	4,393	5.5%	2,183	2.7%	1,794	2.2%	846	1.1%
相模原市計	52,480	17.4%	32,870	10.9%	18,638	6.2%	5,725	1.9%	6,352	2.1%	3,512	1.2%
緑区	12,639	17.2%	7,581	10.3%	4,388	6.0%	1,358	1.8%	1,420	1.9%	957	1.3%
中央区	17,907	16.7%	11,036	10.3%	6,686	6.2%	1,761	1.6%	2,168	2.0%	1,248	1.2%
南区	21,934	18.2%	14,253	11.8%	7,564	6.3%	2,606	2.2%	2,764	2.3%	1,307	1.1%
横須賀市	26,141	14.6%	17,108	9.6%	8,549	4.8%	2,810	1.6%	2,761	1.5%	1,500	0.8%
平塚市	17,328	16.4%	12,458	11.8%	5,674	5.4%	2,799	2.6%	1,942	1.8%	1,406	1.3%
鎌倉市	21,116	24.7%	11,697	13.7%	4,240	5.0%	2,893	3.4%	1,877	2.2%	850	1.0%
藤沢市	32,354	18.4%	20,145	11.5%	10,752	6.1%	7,518	4.3%	5,209	3.0%	2,135	1.2%
小田原市	14,139	16.9%	7,503	9.0%	3,761	4.5%	11,442	13.7%	1,166	1.4%	783	0.9%
茅ヶ崎市	20,281	19.7%	11,960	11.6%	6,128	5.9%	2,996	2.9%	2,625	2.5%	1,047	1.0%
逗子市	7,215	24.9%	3,524	12.2%	1,572	5.4%	881	3.0%	605	2.1%	240	0.8%
三浦市	2,329	13.1%	2,513	14.1%	771	4.3%	312	1.8%	305	1.7%	139	0.8%
秦野市	12,275	17.9%	6,632	9.6%	3,497	5.1%	5,294	7.7%	1,244	1.8%	792	1.2%
厚木市	14,562	16.5%	8,346	9.5%	5,271	6.0%	1,997	2.3%	1,405	1.6%	754	0.9%
大和市	18,400	19.4%	9,882	10.4%	5,776	6.1%	2,011	2.1%	1,900	2.0%	1,230	1.3%
伊勢原市	7,342	17.6%	4,041	9.7%	2,183	5.2%	1,192	2.9%	674	1.6%	352	0.8%
海老名市	11,287	19.6%	5,960	10.3%	3,253	5.6%	1,325	2.3%	1,039	1.8%	871	1.5%
座間市	9,853	18.5%	6,350	11.9%	3,224	6.0%	1,027	1.9%	1,013	1.9%	798	1.5%
南足柄市	2,715	12.9%	1,517	7.2%	730	3.5%	6,006	28.6%	253	1.2%	120	0.6%
綾瀬市	5,616	16.4%	3,017	8.8%	1,997	5.8%	546	1.6%	644	1.9%	460	1.3%
一般市計	222,953	18.0%	132,653	10.7%	67,378	5.4%	51,049	4.1%	24,662	2.0%	13,477	1.1%
葉山町	3,830	24.2%	1,802	11.4%	747	4.7%	651	4.1%	309	2.0%	144	0.9%
寒川町	2,881	15.2%	2,076	11.0%	1,065	5.6%	779	4.1%	384	2.0%	228	1.2%
大磯町	2,903	19.0%	1,736	11.4%	770	5.0%	728	4.8%	318	2.1%	176	1.2%
二宮町	2,708	18.9%	1,762	12.3%	749	5.2%	816	5.7%	314	2.2%	183	1.3%
中井町	678	15.3%	383	8.6%	182	4.1%	649	14.6%	48	1.1%	50	1.1%
大井町	1,006	13.3%	500	6.6%	282	3.7%	2,034	26.9%	79	1.0%	54	0.7%
松田町	816	13.8%	375	6.4%	182	3.1%	1,507	25.5%	88	1.5%	69	1.2%
山北町	909	14.0%	419	6.5%	176	2.7%	1,788	27.6%	67	1.0%	42	0.6%
開成町	644	7.7%	288	3.4%	160	1.9%	4,891	58.4%	54	0.6%	26	0.3%
箱根町	928	16.5%	521	9.3%	282	5.0%	443	7.9%	46	0.8%	47	0.8%
真鶴町	646	15.1%	353	8.3%	196	4.6%	401	9.4%	56	1.3%	44	1.0%
湯河原町	1,963	16.2%	1,028	8.5%	618	5.1%	938	7.7%	207	1.7%	161	1.3%
愛川町	2,091	12.9%	1,628	10.0%	818	5.0%	246	1.5%	177	1.1%	171	1.1%
清川村	175	11.0%	140	8.8%	73	4.6%	44	2.8%	23	1.4%	13	0.8%
町村計	22,178	16.2%	13,011	9.5%	6,300	4.6%	15,915	11.6%	2,170	1.6%	1,408	1.0%
県計	740,207	18.8%	444,955	11.3%	242,462	6.2%	119,633	3.0%	76,792	2.0%	41,359	1.1%

資料 6-3 参議院神奈川県選出議員選挙 党派別（候補者別）得票 その3 2013.7.21 執行

開票区名	諸派 及川幸久		無所属 森下正勝		無効票	
	得票	得票率	得票	得票率	無効票	無効率
県計	10,006	0.3%	30,403	0.8%	84,790	2.1%
横浜市計	4,117	0.3%	13,473	0.8%	36,902	2.2%
鶴見区	377	0.3%	963	0.8%	2,826	2.4%
神奈川区	224	0.2%	813	0.8%	2,230	2.3%
西区	121	0.3%	349	0.8%	1,241	2.8%
中区	128	0.2%	411	0.7%	1,389	2.3%
南区	216	0.3%	691	0.8%	2,075	2.4%
港南区	269	0.3%	803	0.8%	2,190	2.1%
保土ヶ谷区	233	0.3%	764	0.8%	2,037	2.2%
旭区	291	0.3%	747	0.7%	2,755	2.4%
磯子区	161	0.2%	604	0.8%	1,560	2.1%
金沢区	242	0.2%	737	0.8%	2,185	2.2%
港北区	342	0.2%	1,515	1.0%	3,330	2.2%
緑区	184	0.2%	613	0.8%	1,616	2.1%
青葉区	369	0.3%	962	0.7%	3,037	2.2%
都筑区	235	0.3%	676	0.8%	1,672	1.9%
戸塚区	310	0.3%	1,169	1.0%	2,795	2.2%
栄区	128	0.2%	487	0.8%	1,254	2.0%
泉区	162	0.2%	767	1.1%	1,453	2.0%
瀬谷区	125	0.2%	402	0.7%	1,257	2.3%
川崎市計	1,461	0.2%	4,834	0.8%	12,727	2.0%
川崎区	244	0.3%	659	0.8%	1,946	2.2%
幸区	171	0.2%	534	0.8%	1,514	2.1%
中原区	241	0.2%	954	0.9%	2,324	2.1%
高津区	222	0.2%	789	0.9%	1,781	1.9%
宮前区	214	0.2%	669	0.7%	1,771	1.8%
多摩区	211	0.2%	726	0.8%	1,806	2.0%
麻生区	158	0.2%	503	0.6%	1,585	1.9%
相模原市計	868	0.3%	2,380	0.8%	5,986	1.9%
緑区	274	0.4%	568	0.8%	1,476	2.0%
中央区	326	0.3%	825	0.8%	2,143	2.0%
南区	268	0.2%	987	0.8%	2,367	1.9%
横須賀市	447	0.2%	1,379	0.8%	3,630	2.0%
平塚市	295	0.3%	842	0.8%	2,580	2.4%
鎌倉市	176	0.2%	561	0.7%	1,808	2.1%
藤沢市	466	0.3%	1,277	0.7%	3,453	1.9%
小田原市	207	0.2%	463	0.6%	2,079	2.4%
茅ヶ崎市	263	0.3%	740	0.7%	2,186	2.1%
逗子市	65	0.2%	171	0.6%	563	1.9%
三浦市	47	0.3%	80	0.4%	508	2.8%
秦野市	159	0.2%	329	0.5%	1,393	2.0%
厚木市	275	0.3%	652	0.7%	1,772	2.0%
大和市	274	0.3%	857	0.9%	2,154	2.2%
伊勢原市	129	0.3%	356	0.9%	902	2.1%
海老名市	134	0.2%	440	0.8%	1,141	1.9%
座間市	139	0.3%	479	0.9%	1,149	2.1%
南足柄市	46	0.2%	93	0.4%	343	1.6%
綾瀬市	87	0.3%	273	0.8%	659	1.9%
一般市計	3,209	0.3%	8,992	0.7%	26,320	2.1%
葉山町	33	0.2%	86	0.5%	305	1.9%
寒川町	41	0.2%	136	0.7%	356	1.8%
大磯町	39	0.3%	97	0.6%	328	2.1%
二宮町	41	0.3%	84	0.6%	306	2.1%
中井町	12	0.3%	33	0.7%	114	2.5%
大井町	13	0.2%	33	0.4%	165	2.1%
松田町	19	0.3%	26	0.4%	112	1.9%
山北町	15	0.2%	27	0.4%	131	2.0%
開成町	14	0.2%	15	0.2%	89	1.1%
箱根町	13	0.2%	31	0.6%	181	3.1%
真鶴町	16	0.4%	17	0.4%	94	2.2%
湯河原町	31	0.3%	41	0.3%	297	2.4%
愛川町	61	0.4%	91	0.6%	331	2.0%
清川村	3	0.2%	7	0.4%	46	2.8%
町村計	351	0.3%	724	0.5%	2,855	2.0%
県計	10,006	0.3%	30,403	0.8%	84,790	2.1%

資料 7-1 参議院比例代表選挙 神奈川県内党派別得票 2013.7.21 執行

開票区名	当日有権者数(人)	投票者数(人)	投票率(%)	有効投票	自民党		民主党		公明党	
					得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率
県計	7,365,069	4,011,605	54.47	3,931,200	1,346,664	34.3%	481,168	12.2%	444,670	11.3%
横浜市計	2,996,966	1,664,315	55.53	1,631,599	556,587	34.1%	197,712	12.1%	175,041	10.7%
鶴見区	225,187	117,923	52.37	115,437	38,181	33.1%	12,265	10.6%	14,807	12.8%
神奈川区	190,350	98,340	51.66	96,393	32,151	33.4%	10,624	11.0%	10,679	11.1%
西区	80,305	43,562	54.25	42,557	15,935	37.4%	4,515	10.6%	4,384	10.3%
中区	114,455	59,293	51.80	57,955	20,964	36.2%	6,066	10.5%	6,295	10.9%
南区	163,684	86,836	53.05	84,940	30,234	35.6%	9,391	11.1%	11,214	13.2%
港南区	180,518	103,956	57.59	101,974	36,728	36.0%	13,388	13.1%	11,201	11.0%
保土ヶ谷区	166,628	93,422	56.07	91,439	29,674	32.5%	11,059	12.1%	12,874	14.1%
旭区	206,569	116,481	56.39	114,003	35,935	31.5%	15,287	13.4%	15,758	13.8%
磯子区	134,779	74,402	55.20	72,918	25,313	34.7%	9,905	13.6%	8,544	11.7%
金沢区	168,647	99,702	59.12	97,705	35,668	36.5%	12,761	13.1%	9,693	9.9%
港北区	271,972	150,175	55.22	147,407	51,802	35.1%	16,897	11.5%	12,557	8.5%
緑区	142,083	78,777	55.44	77,295	23,688	30.6%	8,599	11.1%	8,477	11.0%
青葉区	242,126	140,008	57.82	137,768	46,005	33.4%	15,110	11.0%	8,517	6.2%
都筑区	157,130	86,643	55.14	85,300	31,016	36.4%	9,579	11.2%	7,356	8.6%
戸塚区	221,471	125,093	56.48	122,700	41,865	34.1%	16,754	13.7%	11,647	9.5%
栄区	103,079	61,306	59.47	60,060	19,798	33.0%	8,293	13.8%	5,236	8.7%
泉区	126,016	72,581	57.60	71,099	24,016	33.8%	9,596	13.5%	7,981	11.2%
瀬谷区	101,967	55,815	54.74	54,632	17,594	32.2%	7,614	13.9%	7,814	14.3%
川崎市計	1,154,260	635,047	55.02	622,439	207,711	33.4%	69,575	11.2%	69,771	11.2%
川崎区	176,248	88,849	50.41	86,726	28,531	32.9%	8,365	9.6%	13,693	15.8%
幸区	128,096	71,981	56.19	70,441	23,259	33.0%	8,025	11.4%	9,256	13.1%
中原区	191,119	108,759	56.91	106,596	37,083	34.8%	11,653	10.9%	10,053	9.4%
高津区	176,719	94,048	53.22	92,377	30,489	33.0%	9,041	9.8%	11,208	12.1%
宮前区	176,745	96,912	54.83	95,158	32,505	34.2%	9,936	10.4%	10,699	11.2%
多摩区	167,624	92,571	55.23	90,779	28,972	31.9%	11,191	12.3%	9,141	10.1%
麻生区	137,709	81,927	59.49	80,356	26,869	33.4%	11,362	14.1%	5,718	7.1%
相模原市計	576,783	307,334	53.28	301,106	101,159	33.6%	40,665	13.5%	39,520	13.1%
緑区	141,581	75,105	53.05	73,533	25,686	34.9%	9,962	13.5%	10,135	13.8%
中央区	212,176	109,567	51.64	107,228	35,845	33.4%	13,973	13.0%	16,006	14.9%
南区	223,026	122,662	55.00	120,343	39,628	32.9%	16,729	13.9%	13,379	11.1%
横須賀市	348,137	182,503	52.42	178,996	77,619	43.4%	20,434	11.4%	23,428	13.1%
平塚市	210,898	108,431	51.41	105,849	36,981	34.9%	13,430	12.7%	14,630	13.8%
鎌倉市	148,799	87,258	58.64	85,840	27,153	31.6%	10,887	12.7%	6,041	7.0%
藤沢市	339,283	179,076	52.78	175,707	56,756	32.3%	24,497	13.9%	17,647	10.0%
小田原市	161,421	85,765	53.13	83,912	25,114	29.9%	8,996	10.7%	9,129	10.9%
茅ヶ崎市	193,714	105,313	54.37	103,387	34,062	32.9%	13,837	13.4%	11,609	11.2%
逗子市	50,154	29,487	58.79	28,857	9,654	33.5%	3,307	11.5%	2,203	7.6%
三浦市	40,514	18,313	45.20	17,882	7,441	41.6%	1,567	8.8%	2,760	15.4%
秦野市	134,355	70,130	52.20	68,580	23,595	34.4%	9,382	13.7%	7,697	11.2%
厚木市	179,886	89,754	49.89	87,893	31,370	35.7%	13,365	15.2%	11,497	13.1%
大和市	186,463	96,830	51.93	94,829	29,765	31.4%	9,758	10.3%	12,119	12.8%
伊勢原市	80,519	42,685	53.01	41,839	15,427	36.9%	6,805	16.3%	4,616	11.0%
海老名市	103,945	58,748	56.52	57,678	20,833	36.1%	7,405	12.8%	6,044	10.5%
座間市	105,631	54,535	51.63	53,423	17,582	32.9%	7,001	13.1%	6,700	12.5%
南足柄市	36,147	21,354	59.08	20,816	6,976	33.5%	2,178	10.5%	2,387	11.5%
綾瀬市	66,832	34,945	52.29	34,210	12,509	36.6%	4,206	12.3%	5,388	15.7%
一般市計	2,319,866	1,265,228	54.54	1,239,713	432,844	34.9%	137,063	11.1%	143,900	11.6%
葉山町	27,574	16,118	58.45	15,838	5,587	35.3%	1,724	10.9%	1,196	7.6%
寒川町	38,652	19,264	49.84	18,867	5,952	31.5%	2,729	14.5%	3,020	16.0%
大磯町	27,724	15,595	56.25	15,295	5,832	38.1%	1,944	12.7%	1,389	9.1%
二宮町	25,033	14,631	58.45	14,283	5,159	36.1%	1,848	12.9%	1,258	8.8%
中井町	8,028	4,550	56.68	4,399	1,661	37.8%	471	10.7%	484	11.0%
大井町	13,835	7,731	55.88	7,463	2,649	35.5%	683	9.2%	851	11.4%
松田町	9,955	6,012	60.39	5,850	2,101	35.9%	602	10.3%	546	9.3%
山北町	9,891	6,609	66.82	6,391	2,416	37.8%	765	12.0%	548	8.6%
開成町	13,094	8,457	64.59	8,120	2,549	31.4%	722	8.9%	713	8.8%
箱根町	10,999	5,812	52.84	5,650	2,059	36.4%	445	7.9%	792	14.0%
真鶴町	7,051	4,362	61.86	4,246	1,526	35.9%	448	10.6%	658	15.5%
湯河原町	22,733	12,434	54.70	12,093	4,457	36.9%	1,384	11.4%	1,472	12.2%
愛川町	33,095	16,564	50.05	16,235	5,721	35.2%	2,199	13.5%	3,245	20.0%
清川村	2,698	1,643	60.90	1,600	688	43.0%	177	11.1%	262	16.4%
町村計	250,362	139,782	55.83	136,339	48,362	35.5%	16,152	11.8%	16,435	12.1%
県計	7,365,069	4,011,605	54.47	3,931,200	1,346,664	34.3%	481,168	12.2%	444,670	11.3%

開票区名	みんなの党		維新の会		共産党		社民党		生活の党	
	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率
県計	570,169	14.5%	410,505	10.4%	400,561	10.2%	89,178	2.3%	63,016	1.6%
横浜市計	244,689	15.0%	177,304	10.9%	166,787	10.2%	37,870	2.3%	26,615	1.6%
鶴見区	15,992	13.9%	13,348	11.6%	13,679	11.8%	2,235	1.9%	1,934	1.7%
神奈川区	13,726	14.2%	11,762	12.2%	10,701	11.1%	2,158	2.2%	1,612	1.7%
西区	5,829	13.7%	4,809	11.3%	4,199	9.9%	888	2.1%	651	1.5%
中区	7,827	13.5%	6,565	11.3%	5,602	9.7%	1,355	2.3%	1,127	1.9%
南区	9,880	11.6%	8,724	10.3%	9,740	11.5%	1,826	2.1%	1,394	1.6%
港南区	12,566	12.3%	10,275	10.1%	10,962	10.7%	2,438	2.4%	1,573	1.5%
保土ヶ谷区	12,753	13.9%	9,440	10.3%	9,559	10.5%	2,095	2.3%	1,555	1.7%
旭区	15,715	13.8%	11,378	10.0%	12,117	10.6%	3,035	2.7%	1,850	1.6%
磯子区	9,131	12.5%	7,465	10.2%	7,458	10.2%	1,803	2.5%	1,259	1.7%
金沢区	12,949	13.3%	9,868	10.1%	9,989	10.2%	2,417	2.5%	1,458	1.5%
港北区	22,891	15.5%	17,327	11.8%	14,437	9.8%	3,466	2.4%	2,469	1.7%
緑区	15,944	20.6%	7,948	10.3%	7,373	9.5%	1,890	2.4%	1,219	1.6%
青葉区	31,226	22.7%	14,637	10.6%	11,630	8.4%	3,153	2.3%	2,328	1.7%
都筑区	14,021	16.4%	10,814	12.7%	6,717	7.9%	1,774	2.1%	1,348	1.6%
戸塚区	17,174	14.0%	13,687	11.2%	13,226	10.8%	2,883	2.3%	1,962	1.6%
栄区	10,767	17.9%	5,687	9.5%	6,075	10.1%	1,518	2.5%	953	1.6%
泉区	9,670	13.6%	8,001	11.3%	7,401	10.4%	1,615	2.3%	1,089	1.5%
瀬谷区	6,618	12.1%	5,563	10.2%	5,917	10.8%	1,321	2.4%	832	1.5%
川崎市計	87,944	14.1%	70,649	11.4%	73,089	11.7%	13,593	2.2%	10,683	1.7%
川崎区	9,583	11.0%	9,655	11.1%	12,111	14.0%	1,577	1.8%	1,311	1.5%
幸区	8,796	12.5%	8,156	11.6%	8,694	12.3%	1,344	1.9%	1,229	1.7%
中原区	15,453	14.5%	12,817	12.0%	12,163	11.4%	2,240	2.1%	1,719	1.6%
高津区	13,498	14.6%	11,033	11.9%	10,218	11.1%	1,889	2.0%	1,680	1.8%
宮前区	14,839	15.6%	10,799	11.3%	9,592	10.1%	2,005	2.1%	1,669	1.8%
多摩区	13,124	14.5%	9,829	10.8%	11,470	12.6%	2,258	2.5%	1,600	1.8%
麻生区	12,649	15.7%	8,358	10.4%	8,839	11.0%	2,280	2.8%	1,475	1.8%
相模原市計	36,643	12.2%	32,080	10.7%	30,360	10.1%	7,105	2.4%	5,334	1.8%
緑区	8,437	11.5%	7,533	10.2%	6,739	9.2%	1,609	2.2%	1,280	1.7%
中央区	12,600	11.8%	11,674	10.9%	10,300	9.6%	2,305	2.1%	1,839	1.7%
南区	15,604	13.0%	12,872	10.7%	13,321	11.1%	3,191	2.7%	2,215	1.8%
横須賀市	17,848	10.0%	14,661	8.2%	14,970	8.4%	3,484	1.9%	2,249	1.3%
平塚市	11,926	11.3%	10,847	10.2%	11,248	10.6%	2,369	2.2%	1,618	1.5%
鎌倉市	16,568	19.3%	7,291	8.5%	10,082	11.7%	2,279	2.7%	1,461	1.7%
藤沢市	23,119	13.2%	18,377	10.5%	18,199	10.4%	5,013	2.9%	2,920	1.7%
小田原市	22,365	26.7%	6,580	7.8%	6,678	8.0%	1,366	1.6%	1,049	1.3%
茅ヶ崎市	13,565	13.1%	11,039	10.7%	10,736	10.4%	2,735	2.6%	1,689	1.6%
逗子市	5,621	19.5%	2,413	8.4%	3,082	10.7%	684	2.4%	430	1.5%
三浦市	1,569	8.8%	1,400	7.8%	2,193	12.3%	329	1.8%	212	1.2%
秦野市	10,544	15.4%	6,648	9.7%	6,022	8.8%	1,591	2.3%	1,025	1.5%
厚木市	9,771	11.1%	8,931	10.2%	7,824	8.9%	1,668	1.9%	1,273	1.4%
大和市	19,592	20.7%	9,381	9.9%	8,299	8.8%	2,006	2.1%	1,484	1.6%
伊勢原市	4,684	11.2%	4,022	9.6%	3,641	8.7%	859	2.1%	570	1.4%
海老名市	8,169	14.2%	6,175	10.7%	5,333	9.2%	1,297	2.2%	881	1.5%
座間市	7,193	13.5%	5,673	10.6%	5,662	10.6%	1,240	2.3%	897	1.7%
南足柄市	4,048	19.4%	1,717	8.2%	1,652	7.9%	404	1.9%	220	1.1%
綾瀬市	4,122	12.0%	3,314	9.7%	2,735	8.0%	667	1.9%	502	1.5%
一般市計	180,712	14.6%	118,473	9.6%	118,359	9.5%	27,991	2.3%	18,482	1.5%
葉山町	2,811	17.7%	1,313	8.3%	1,548	9.8%	320	2.0%	258	1.6%
寒川町	2,041	10.8%	1,810	9.6%	1,876	9.9%	408	2.2%	258	1.4%
大磯町	1,889	12.4%	1,407	9.2%	1,564	10.2%	422	2.8%	274	1.8%
二宮町	1,895	13.3%	1,389	9.7%	1,621	11.3%	349	2.4%	222	1.6%
中井町	799	18.2%	338	7.7%	369	8.4%	73	1.7%	51	1.2%
大井町	1,589	21.3%	623	8.3%	505	6.8%	109	1.5%	71	1.0%
松田町	1,268	21.7%	482	8.2%	383	6.5%	108	1.8%	74	1.3%
山北町	1,159	18.1%	507	7.9%	404	6.3%	120	1.9%	77	1.2%
開成町	1,386	17.1%	624	7.7%	411	5.1%	134	1.7%	83	1.0%
箱根町	1,142	20.2%	487	8.6%	456	8.1%	49	0.9%	64	1.1%
真鶴町	673	15.9%	347	8.2%	305	7.2%	66	1.6%	58	1.4%
湯河原町	1,942	16.1%	1,140	9.4%	938	7.8%	205	1.7%	193	1.6%
愛川町	1,456	9.0%	1,392	8.6%	1,458	9.0%	228	1.4%	197	1.2%
清川村	122	7.6%	138	8.6%	124	7.8%	28	1.8%	20	1.3%
町村計	20,178	14.8%	11,997	8.8%	11,963	8.8%	2,619	1.9%	1,900	1.4%
県計	570,169	14.5%	410,505	10.4%	400,561	10.2%	89,178	2.3%	63,016	1.6%

開票区名	みどりの風		緑の党		新党大地		幸福実現		無効票	
	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	得票	得票率	無効票	無効率
県計	51,584	1.3%	47,339	1.2%	17,278	0.4%	9,063	0.2%	80,405	2.0%
横浜市計	18,770	1.2%	19,000	1.2%	7,401	0.5%	3,818	0.2%	32,716	2.0%
鶴見区	996	0.9%	1,129	1.0%	524	0.5%	344	0.3%	2,486	2.1%
神奈川区	1,041	1.1%	1,223	1.3%	490	0.5%	222	0.2%	1,947	2.0%
西区	484	1.1%	580	1.4%	184	0.4%	95	0.2%	1,005	2.3%
中区	809	1.4%	895	1.5%	319	0.6%	129	0.2%	1,338	2.3%
南区	1,042	1.2%	868	1.0%	420	0.5%	204	0.2%	1,896	2.2%
港南区	1,101	1.1%	1,032	1.0%	454	0.4%	252	0.2%	1,982	1.9%
保土ヶ谷区	901	1.0%	890	1.0%	411	0.4%	213	0.2%	1,983	2.1%
旭区	1,093	1.0%	1,078	0.9%	488	0.4%	264	0.2%	2,478	2.1%
磯子区	811	1.1%	735	1.0%	329	0.5%	162	0.2%	1,484	2.0%
金沢区	1,038	1.1%	1,171	1.2%	467	0.5%	224	0.2%	1,997	2.0%
港北区	1,830	1.2%	2,650	1.8%	749	0.5%	329	0.2%	2,768	1.8%
緑区	862	1.1%	813	1.1%	312	0.4%	166	0.2%	1,482	1.9%
青葉区	2,329	1.7%	1,909	1.4%	600	0.4%	322	0.2%	2,240	1.6%
都筑区	1,034	1.2%	1,051	1.2%	384	0.5%	201	0.2%	1,343	1.6%
戸塚区	1,364	1.1%	1,321	1.1%	526	0.4%	288	0.2%	2,393	1.9%
栄区	807	1.3%	585	1.0%	224	0.4%	115	0.2%	1,246	2.0%
泉区	694	1.0%	591	0.8%	293	0.4%	149	0.2%	1,482	2.0%
瀬谷区	527	1.0%	471	0.9%	222	0.4%	136	0.2%	1,183	2.1%
川崎市計	6,831	1.1%	7,851	1.3%	3,358	0.5%	1,378	0.2%	12,608	2.0%
川崎区	600	0.7%	611	0.7%	471	0.5%	214	0.2%	2,123	2.4%
幸区	557	0.8%	614	0.9%	352	0.5%	157	0.2%	1,540	2.1%
中原区	1,116	1.0%	1,471	1.4%	612	0.6%	213	0.2%	2,163	2.0%
高津区	1,141	1.2%	1,446	1.6%	521	0.6%	208	0.2%	1,671	1.8%
宮前区	1,123	1.2%	1,293	1.4%	490	0.5%	205	0.2%	1,754	1.8%
多摩区	1,140	1.3%	1,335	1.5%	494	0.5%	223	0.2%	1,792	1.9%
麻生区	1,150	1.4%	1,081	1.3%	416	0.5%	157	0.2%	1,571	1.9%
相模原市計	3,104	1.0%	3,029	1.0%	1,352	0.4%	751	0.2%	6,228	2.0%
緑区	722	1.0%	877	1.2%	309	0.4%	243	0.3%	1,572	2.1%
中央区	979	0.9%	836	0.8%	510	0.5%	257	0.2%	2,339	2.1%
南区	1,402	1.2%	1,216	1.0%	533	0.4%	251	0.2%	2,319	1.9%
横須賀市	1,779	1.0%	1,584	0.9%	553	0.3%	385	0.2%	3,507	1.9%
平塚市	1,125	1.1%	979	0.9%	432	0.4%	261	0.2%	2,582	2.4%
鎌倉市	1,379	1.6%	2,204	2.6%	322	0.4%	172	0.2%	1,418	1.6%
藤沢市	4,844	2.8%	3,143	1.8%	776	0.4%	411	0.2%	3,369	1.9%
小田原市	1,531	1.8%	669	0.8%	256	0.3%	176	0.2%	1,853	2.2%
茅ヶ崎市	1,450	1.4%	1,999	1.9%	419	0.4%	244	0.2%	1,926	1.8%
逗子市	452	1.6%	846	2.9%	106	0.4%	57	0.2%	630	2.1%
三浦市	148	0.8%	171	1.0%	53	0.3%	37	0.2%	431	2.4%
秦野市	1,171	1.7%	530	0.8%	213	0.3%	157	0.2%	1,550	2.2%
厚木市	901	1.0%	677	0.8%	355	0.4%	259	0.3%	1,861	2.1%
大和市	982	1.0%	926	1.0%	388	0.4%	128	0.1%	2,001	2.1%
伊勢原市	568	1.4%	320	0.8%	199	0.5%	127	0.3%	846	2.0%
海老名市	641	1.1%	521	0.9%	249	0.4%	127	0.2%	1,070	1.8%
座間市	647	1.2%	448	0.8%	243	0.5%	135	0.3%	1,112	2.0%
南足柄市	929	4.5%	213	1.0%	48	0.2%	44	0.2%	538	2.5%
綾瀬市	335	1.0%	227	0.7%	129	0.4%	73	0.2%	735	2.1%
一般市計	18,888	1.5%	15,461	1.2%	4,742	0.4%	2,793	0.2%	25,515	2.0%
葉山町	273	1.7%	732	4.6%	50	0.3%	26	0.2%	280	1.7%
寒川町	509	2.7%	160	0.8%	64	0.3%	40	0.2%	397	2.1%
大磯町	252	1.6%	225	1.5%	62	0.4%	31	0.2%	300	1.9%
二宮町	285	2.0%	186	1.3%	39	0.3%	30	0.2%	348	2.4%
中井町	90	2.0%	36	0.8%	15	0.3%	11	0.3%	151	3.3%
大井町	277	3.7%	59	0.8%	21	0.3%	15	0.2%	268	3.5%
松田町	190	3.2%	55	0.9%	16	0.3%	24	0.4%	162	2.7%
山北町	295	4.6%	63	1.0%	18	0.3%	18	0.3%	218	3.3%
開成町	1,361	16.8%	106	1.3%	15	0.2%	16	0.2%	337	4.0%
箱根町	69	1.2%	48	0.8%	26	0.5%	12	0.2%	162	2.8%
真鶴町	68	1.6%	69	1.6%	12	0.3%	15	0.4%	116	2.7%
湯河原町	186	1.5%	114	0.9%	31	0.3%	28	0.2%	341	2.7%
愛川町	127	0.8%	109	0.7%	51	0.3%	51	0.3%	329	2.0%
清川村	2	0.1%	32	2.0%	2	0.1%	5	0.3%	43	2.6%
町村計	3,989	2.9%	1,996	1.5%	422	0.3%	322	0.2%	3,443	2.5%
県計	51,584	1.3%	47,339	1.2%	17,278	0.4%	9,063	0.2%	80,405	2.0%

資料 8-1 神奈川県選出参議院議員 その1 主要政党のみ 地方区選挙

回数	執行年月日	当落	候補者指名	所属政党等	得票数	得票率	投票率				
第1回	1947(S22).4.20 上位2名6年議員 下位2名3年議員	当	三木 治朗	社会党	新	174,914	30.7%	55.70%			
		当	小串 清一	自由党	新	106,689	18.8%				
		当	鈴木 憲一	協同党	新	102,075	17.9%				
		当	大隅 憲二	自由党	新	56,445	9.9%				
			西村 定雄	進歩党	新	49,237	8.7%				
			岡崎 一夫	共産党	新	29,824	5.2%				
			沼田 安蔵	進歩党	新	24,483	4.3%				
			その他(2候補) 有効投票			25,320 568,987	4.5% 100.0%				
第2回	1950(S25).6.4	当	曾祢 益	社会党	新	252,305	31.3%	63.86%			
		当	石村 幸作	自由党	新	163,284	20.3%				
			石渡 清作	自由党	新	134,346	16.7%				
			西村 定雄	進歩党	新	96,756	12.0%				
			岡崎 一夫	共産党	新	88,369	11.0%				
			その他(2候補)			70,036	8.7%				
			有効投票			805,096	100.0%				
		第3回	1953(S28).4.24	当	三木 治朗	社会党(右)	前		172,093	24.3%	52.85%
当	河野 謙三			無所属	新	164,324	23.2%				
	永井 要造			自由党	新	150,212	21.2%				
	吉田 セイ			改進黨	新	137,302	19.4%				
	相沢 重明			社会党(左)	新	115,604	16.3%				
	岡崎 一夫			共産党	新	40,561	5.7%				
	有効投票					708,096	100.0%				
第4回	1956(S31).7.8			当	曾祢 益	社会党	前	241,085	29.1%	50.60%	
		当	相沢 重明	社会党	新	190,673	23.0%				
			丸山 時雄	自民党	新	176,810	21.3%				
			石村 幸作	自民党	前	175,352	21.1%				
			中西 功	共産党	新	45,945	5.5%				
			有効投票			829,865	100.0%				
		第5回	1959(S34).6.2	当	河野 謙三	自民党	前	364,120	38.9%		50.31%
				当	田上 松衛	社会党	新	342,542	36.6%		
	加藤 喜太郎			無所属	新	111,902	12.0%				
	堀内 万吉			無所属	新	58,490	6.2%				
	松島 松太郎			共産党	新	54,416	5.8%				
	伊藤 義志蔵			諸派	新	4,721	0.5%				
	有効投票					936,191	100.0%				
第6回	1962(S37).7.1			当	曾祢 益	民社党	前	442,468	32.8%	61.22%	
		当	相沢 重明	社会党	前	437,708	32.4%				
			松岡 正二	自民党	新	401,842	29.8%				
			松島 松太郎	共産党	新	68,031	5.0%				
			有効投票			1,350,049	100.0%				
		第7回	1965(S40).7.4 1967.2.12補欠選挙 当選・佐藤一郎	当	岡 三郎	社会党	新	522,094	34.7%		57.02%
当	河野 謙三			自民党	前	519,027	34.5%				
	金子 駿介			民社党	新	257,352	17.1%				
	佐々木 修二			共産党	新	94,506	6.3%				
	その他(3候補)					111,756	7.4%				
	有効投票					1,504,735	100.0%				
第8回	1968(S43).7.7			当	佐藤 一郎	自民党	前	721,103	37.9%	61.04%	
		当	竹田 四郎	社会党	新	666,039	35.0%				
			佐藤 一馬	民社党	新	329,627	17.3%				
			中路 雅弘	共産党	新	184,210	9.7%				
			有効投票			1,900,979	100.0%				
		第9回	1971(S46).6.27	当	河野 謙三	自民党	前	795,799	42.7%		51.46%
当	片岡 勝治			社会党	新	695,402	37.3%				
	中路 雅弘			共産党	新	370,941	19.9%				
	有効投票					1,862,142	100.0%				
第10回	1974(S49).7.7			当	竹田 四郎	社会党	前	814,098	28.7%	69.12%	
		当	秦野 章	自民党	新	736,016	25.9%				
			草野 威	公明党	新	508,762	17.9%				
			陶山 圭之輔	無所属	新	417,549	14.7%				
			高橋 高望	民社党	新	336,241	11.8%				
			その他(2候補)			28,162	1.0%				
			有効投票			2,840,828	100.0%				

資料 8-2 神奈川県選出参議院議員 その2 主要政党のみ 地方区選挙

回数	執行年月日	当落	候補者指名	所属政党等		得票数	得票率	投票率
第11回	1977(S52).7.10	当 当	河野 謙三	無所属	前	1,086,512	41.3%	60.74%
			片岡 勝治	社会党	前	593,009	22.6%	
			広長 敬太郎	無所属	新	518,272	19.7%	
			小泉 初恵	共産党	新	344,239	13.1%	
			その他(3候補)			87,616	3.3%	
有効投票						2,629,648	100.0%	
第12回	1980(S55).6.22 衆参同日選挙	当 当	秦野 章	自民党	前	902,170	28.6%	56.95%
			竹田 四郎	社会党	前	692,100	22.0%	
			広永 敬太郎	民社党	新	664,167	21.1%	
			小泉 初恵	共産党	新	462,753	14.7%	
			大西 裕	無所属	新	349,989	11.1%	
			その他(4候補)			79,325	2.5%	
有効投票						3,150,504	100.0%	
第13回	1983(S58).6.26	当 当	服部 信吾	公明党	新	688,049	26.6%	53.35%
			杉元 恒雄	自民党	新	529,445	20.5%	
			河野 剛雄	無所属	新	508,767	19.7%	
			片岡 勝治	社会党	前	477,919	18.5%	
			小泉 初恵	共産党	新	301,459	11.7%	
			その他(10候補)			76,187	3.0%	
			有効投票					
第14回	1986(S61).7.6 衆参同日選挙 服部信吾死去により 1987.11.1補欠選挙 当選・佐藤謙一郎	当 当	斉藤 文夫	自民党	新	806,519	26.2%	61.11%
			千葉 景子	社会党	新	777,298	25.2%	
			魚谷 増男	民社党	新	568,382	18.4%	
			河野 剛雄	無所属	新	514,155	16.7%	
			岡村 共栄	共産党	新	325,733	10.6%	
			その他(9候補)			90,532	2.9%	
			有効投票					
第15回	1989(H1).7.23	当 当	小林 正	社会党	新	1,175,262	37.9%	58.84%
			石渡 清元	自民党	新	673,544	21.7%	
			円山 雅也	進歩党	新	604,505	19.5%	
			大石 尚子	民社党	新	388,808	12.6%	
			大森 猛	共産党	新	240,359	7.8%	
			その他(8候補)			163,585	5.3%	
			有効投票					
第16回	1992(H4).7.26	当 当	斉藤 文夫	自民党	前	753,852	30.6%	43.06%
			千葉 景子	社会党	前	693,301	28.1%	
			大石 尚子	民社党	新	370,820	15.0%	
			円山 雅也	無所属	新	348,264	14.1%	
			大森 猛	共産党	新	218,175	8.8%	
			その他(8候補)			81,854	3.3%	
			有効投票					
第17回	1995(H7).7.23	当 当 当	松 あきら	新進党	新	718,030	28.2%	40.88%
			石渡 清元	自民党	前	466,457	18.3%	
			斉藤 勁	社会党	新	371,889	14.6%	
			ツルネン・マルテイ	無所属	新	339,484	13.3%	
			石川 好	さきがけ	新	259,327	10.2%	
			畑野 君枝	共産党	新	256,015	10.1%	
			その他(8候補)			133,402	5.2%	
			有効投票					
第18回	1998(H10).7.12	当 当 当	浅尾 慶一郎	民主党	新	640,463	18.0%	55.70%
			畑野 君枝	共産党	新	527,799	14.8%	
			千葉 景子	民主党	前	510,371	14.3%	
			ツルネン・マルテイ	無所属	新	502,712	14.1%	
			斉藤 文夫	自民党	前	463,193	13.0%	
			阿部 知子	社民党	新	298,244	8.4%	
			牧島 功	自民党	新	286,604	8.0%	
			樋高 剛	自由党	新	241,189	6.8%	
			その他(7候補)			95,201	2.7%	
有効投票						3,565,776	100.0%	

資料 8-3 神奈川県選出参議院議員 その3 主要政党のみ 地方区選挙

回数	執行年月日	当落	候補者指名	所属政党等	得票数	得票率	投票率	
第19回	2001(H13).7.29	当	小林 温	自民党	新	1,294,860	35.4%	55.45%
		当	松 あきら	公明党	前	660,839	18.0%	
		当	斉藤 勁	民主党	前	595,812	16.3%	
			上田 恵子	社民党	新	308,554	8.4%	
			太田 正孝	自由党	新	307,005	8.4%	
			宗田 裕之	共産党	新	299,301	8.2%	
			その他(5候補)			196,296	5.4%	
			有効投票			3,662,667	100.0%	
第20回	2004(H16).7.11 2005.10.23補欠選挙 当選・牧山弘恵	当	小泉 昭男	自民党	新	1,217,100	33.2%	54.48%
		当	浅尾 慶一郎	民主党	前	856,504	23.4%	
		当	千葉 景子	民主党	前	843,759	23.0%	
			畑野 君枝	共産党	前	397,660	10.9%	
			上田 恵子	社民党	新	254,943	7.0%	
			その他(2候補)			93,445	2.6%	
			有効投票			3,663,411	100.0%	
第21回	2007(H19).7.29 *は議員を辞職 したため、次点が 繰上当選となった 2009.10.25補欠選挙 当選・金子洋一	当	牧山 弘恵	民主党	新	1,010,866	25.4%	56.32%
		当	小林 温 *	自民党	前	895,752	22.5%	
		当	水戸 将史	民主党	新	781,533	19.7%	
		次	松 あきら	公明党	前	691,842	17.4%	
			畑野 君枝	共産党	元	385,619	9.7%	
			和田 茂	社民党	新	128,757	3.2%	
			その他(2候補)			82,864	2.1%	
			有効投票			3,977,233	100.0%	
第22回	2010(H22).7.11	当	小泉 昭男	自民党	前	982,220	25.2%	55.56%
		当	中西 健治	みんなの党	新	788,729	20.2%	
		当	金子 洋一	民主党	前	745,143	19.1%	
			千葉 景子	民主党	前	696,739	17.9%	
			畑野 君枝	共産党	元	304,059	7.8%	
			木村 栄子	社民党	新	113,712	2.9%	
			その他(4候補)			268,125	6.9%	
			有効投票			3,898,727	100.0%	
第23回	2013(H25).7.21	当	島村 大	自民党	新	1,130,652	28.8%	55.56%
		当	松沢 成文	みんなの党	新	740,207	18.8%	
		当	佐々木 さやか	公明党	新	629,662	16.0%	
		当	牧山 弘恵	民主党	現	461,006	11.7%	
			畑野 君枝	共産党	元	444,955	11.3%	
			水戸 将史	維新の会	現	242,462	6.2%	
			露木 順一	みどりの風	新	119,633	3.0%	
			木村 栄子	社民党	新	76,792	2.0%	
			その他(3候補)			81768	2.1%	
			有効投票			3,927,137	100.0%	

編集後記

本号は、7月21日の投開票で行われた第23回参議院通常選挙結果についての上林理事長による恒例の選挙分析特集号である。結果については、安倍内閣の「アベノミクス」を中心とする経済政策に国民の期待が集中したことが勝因と見るのが一般的だが、民主党への「不信任」傾向が止まっていないことも特徴である。安倍内閣の進める集团的自衛権をめぐる憲法解釈の変更や「秘密保護法案」などに「賛成」する野党もあり、政治の「一極化」はより強まっているように見える。また、大企業や高額所得者には有利な政策が目立つが、格差の拡大が懸念される場所である。国政選挙の季節は、暑い夏の終わりとともに終わり、しばらく訪れないだろうが、政治に対する熱い思いを国民の側が失ってはならないと思う。 (勝島記)

2013年10月25日

自治研かながわ月報第143号 (2013年10月号, 通算207号)

発行所	公益社団法人	神奈川県地方自治研究センター
発行人	上林得郎	編集人 高岡政行 定価1部500円
〒232-0022	横浜市南区高根町1-3	神奈川県地域労働文化会館4F
	☎045(251)9721(代表)	FAX 045(251)3199
	http://kjk.gpn.co.jp/	E-mail:kjk@gpn.co.jp

☆センターのウェブサイト (<http://kjk.gpn.co.jp/>) をご利用下さい。→



会員になるには

1. 誰でも会員になれます。
2. 申込書は自治研センター事務局にあります。会費は個人会員月 1,000 円、賛助会員月 700 円のどちらかを選び、1 年分をそえてお申しこみください。
3. 詳細は自治研センター事務局
☎ 045(251)9721へご連絡ください。

会員の特典

1. 自治研センターの「自治研かながわ月報」が送られます。
2. 「月刊自治研」(自治労本部自治研推進委員会発行・A 5 版・80 ページ程度・定価 800 円) が毎月無料で購読できます。
3. 自治研センターの資料集が活用でき、調査研究会などに参加できます。